

変わろう・変えよう・産業と暮らし
第4期高知県産業振興計画 Ver.3

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)
安芸地域抜粋版

令和4年2月

高 知 県

1 安芸地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

安芸地域は、高知県の東部に位置し、海・山・川の恵まれた自然と温暖な気候を生かし、古くから第一次産業を中心に営んできましたが、年々人口が減少し、昭和30年代半ばには10万人余であったものが、令和2年の国勢調査における当地域の人口は43,666人となり、前回（平成27年）と比較して9.7%減少するという状況になっています。

こうした状況に歯止めをかけるため、各市町村においては、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、産業振興や地産外商、移住の促進等に取り組んでいます。

産業分野別の現状として、農業では、地域の特性に応じた多様な農業が展開されており、特に平野部は冬春ナスを中心とするハウス園芸地帯として、中山間地域は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。

施設野菜については、全国に先駆けて天敵昆虫を利用した総合的病害虫管理を取り入れた栽培に取り組み、消費地からも安全・安心の野菜産地として高い評価を受けるとともに、収量・品質の向上を目指した環境制御技術の迅速な導入に取り組んでいます。

一方、ユズについては、平成24年度に始まった日本初のヨーロッパへの青果輸出が、毎年継続して行われており、ヨーロッパでの知名度が徐々に高まっています。また、北川村の大規模な園地整備や馬路村の村外労働力を確保する取り組み等、将来に向けてユズ産地を維持するための仕組みづくりに取り組んでいます。

林業では、森の工場の拡大や路網整備等による効率的な原木生産や森林経営管理制度を活用した意欲と能力のある経営体による林地の集約化などを進めています。また、高知県が生産量全国一位の白炭の約9割は、室戸市、東洋町を中心に上土佐備長炭として生産されており、シキミと並んで地域を代表する特産林産物となっています。

木材加工については、ウッドショックによる原木価格の高騰により利益率が低下するなど新型コロナの影響による売上げ減が続く中、加工機械や木材乾燥機の整備、経営改善に向けた事業戦略づくりなどを進めています。

水産業では、資源の減少、魚価の低迷、漁業就業者の高齢化など、取り巻く環境は年々厳しさを増しています。そのため、漁獲物の販売促進や高鮮度処理による魚価の向上、移住促進策と連携した就業希望者の掘り起こしや研修制度の充実等による担い手の育成・確保の取り組みを進めています。

商工業では、地域資源である海洋深層水やユズ等を活用した商品の製造に加え、農商工連携や6次産業化などにより新商品の開発を進めています。商店街では、地域の活性化や商業機能の維持・発展などを目指す商店街等振興計画策定に向けた取り組みや、にぎわいづくりのために、地域の若者や学生が中心となって、イベントの企画・実施を行うなど、活性化に向けた動きが生まれています。

観光では、平成27年度に開催された東部地域博覧会を契機として、新たな地域資源の掘り起こしや観光プログラムの造成等が行われ、安芸地域の魅力度が向上したことから、さらなる観光資源の磨き上げや情報発信を行うため、平成28年2月に「(一社)高知県東部観光協議会」を設立し、9市町村が連携して広域観光の推進に取り組んでおり、令和2年3

月には日本版DMOに登録されています。

歴史や食を生かした観光振興の取り組みに加え、県の観光キャンペーンを契機とした自然・体験型観光資源の磨き上げや、事業者連携による観光商品の開発などの取り組みが進んでいます。また、日本遺産「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」についても、関連5町村と関係団体で構成する「中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会」を中心に体験イベントの開催や普及啓発に向けた取り組みが行われているほか、令和3年度に阿佐海岸鉄道で世界初の運行を開始した「DMV（デュアル モード ビークル）」など新たな観光資源を活用した誘客促進に取り組んでいます。

（２） 地域アクションプランの概要

当地域では、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みと歩調を合わせて、第一次産業の振興に向けた生産・加工体制等の充実・強化や、販路の拡大の取り組みを継続するとともに、地域の一次産品等を活用した加工品づくりや、道の駅・直販所における機能の強化にも引き続き取り組みます。

農業分野では、ユズの青果出荷の拡大と品質の向上のための新植、改植を進めていくとともに、ユズ果汁等の安定供給と販路拡大に取り組むほか、ナスの生産拡大と産地力向上を目指し、新技術の定着による高収量生産に取り組むとともに、新たな加工品開発及び地元飲食店等での利用促進を図ります。

林業分野では、伝統産業である備長炭の生産について、研修生の受入などにより出荷量の拡大に引き続き取り組むとともに、木材や木製品についても、経営コンサルタントの活用などにより販売強化を進めていきます。

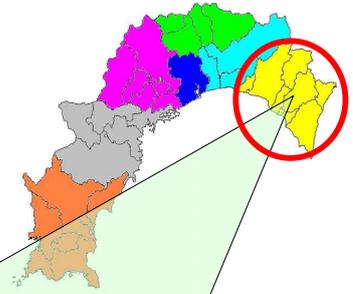
水産業分野では、漁業者による低利用魚や近海マグロを活用した加工品製造・販売に取り組む、高付加価値化、漁業所得の向上を図ります。また、加工業事業者による地元定置網漁獲物の加工品製造・販売についても引き続き取り組むとともに、加工施設の衛生管理体制の高度化を進めていきます。

商工業分野では、地域資源のユズや天日塩、キンメダイ、イチジクなどを活用した加工品の開発及び販路拡大、生産管理の高度化を行い、道の駅や農産物直販所などにおいても、情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取り組みを進めていくほか、地域の中心市街地に賑わいと活力を呼び戻すための商店街等振興計画の策定・実行に向けて支援をしていきます。

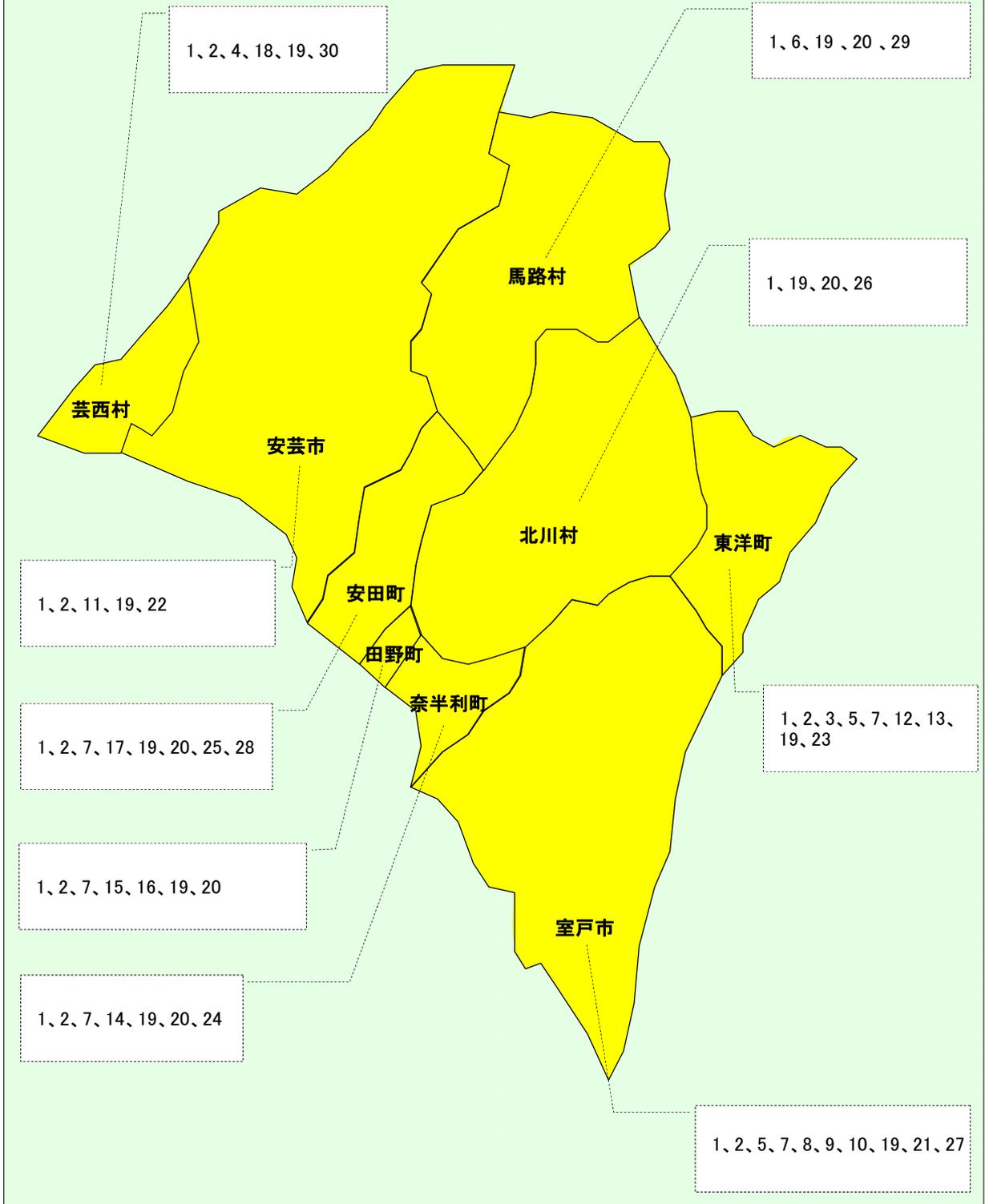
観光分野では、（一社）高知県東部観光協議会を中心として、市町村や関係団体、事業者等と連携しながら、体験プログラム等の造成、宿泊・交通等と連携した周遊促進商品やご当地グルメの開発などにより地域資源の観光資源化を図るとともに、市町村を中心に県や国の事業を活用した拠点施設等の磨き上げを行い、安芸地域の魅力づくりを推進します。そういった資源・魅力をフックに、観光キャンペーンなどの県の施策とも連動しながら、発地及び着地でのプロモーションを強化・推進し、交流人口の創出・拡大に繋げていきます。併せて、マーケティング調査・分析、国・県事業等との連携による観光の担い手確保や育成支援など受入体制の整備、観光関係者で連携する仕組みの構築等に取り組む、持続可能な観光地域づくりの基盤整備を進めていきます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
1	安芸地域のユズを中心とした中山間振興	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト	●	●	●	●	●	●			●
3	東洋町のポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興			●						
4	芸西村の白玉糖による地域活性化									●
5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
6	馬路の林業加工品の販売促進								●	
7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
8	室戸海洋深層水による地域産業の推進	●								
9	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大	●								
10	室戸市中心市街地の活性化	●								
11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化		●							
12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
13	有害鳥獣等を活用したペットフードの開発と販路開拓			●						
14	地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大				●					
15	田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用					●				
16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み					●				
17	やすだ資源を生かした6次産業化事業の推進						●			
18	地場産品直販所「かっぱ市」等による地域活性化									●
19	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
21	室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興	●								
22	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進		●							
23	東洋町における体験型・滞在型観光の推進	●		●						
24	奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大				●					
25	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化						●			
26	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大							●		
27	椎名集落活動センターたのしいなを拠点とした室戸市椎名地区の活性化	●								
28	集落活動センターなかやまを拠点とした安田町中山地区の活性化						●			
29	集落活動センターやなせを拠点とした馬路村魚梁瀬地区の活性化								●	
30	集落活動センターげいせいを拠点とした“小さくてももっと元気で輝くむら”づくり									●



【安芸地域】



AP 名 (実施地域)	No. 1 安芸地域のユズを中心とした中山間振興 (安芸地域全域)
実施主体	◎JA 高知県 (安芸地区)、◎JA 馬路村
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	日本一のユズ産地として、生産性及び品質の向上とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 総出荷量※ (JA 高知県)	5,079t (H27-R元平均) ※	5,262t	5,529t	5,500t (R2-R5 平均)
(2) 通販売上高 (JA 馬路村) (1~12月)	8.1 億円 (R元)	同左	8.1 億円	10 億円

※総出荷量は青果出荷受入量と加工仕向量の合計。4年間平均 (H27~R元) を出発点とする。但し、H28 は他の年より抜きんでて数字が高いため集計から除く。

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新植・改植の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地の集約化に向けた取り組み (R元~R3) ・優良系統苗の確保 (H27~R3) ・勉強会等による栽培技術の向上 (R3 13回) <p>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 (JA 高知県 (安芸地区))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU 向け青果輸出の取り組み (H24~R3) ・県内外での消費拡大イベントの開催 (R3:3回) <p>(JA 馬路村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングホリデー事業を活用した村外労働力の確保 (H29~R3) ・消費者との交流イベント (ゆずはじまる祭) の実施 (H18~R3) ・海外催事への参加による加工品の PR (H29~R3) ・販売拡大に向けた新商品の開発 (H24~R3) ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用したペットボトル充填ラインの整備等 (H29) ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用したリスティング広告の試行 (H30) ・チューブ充填機、異物検査機等の導入 (H30) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆苗木供給数 H27:5,570本 → R3 (見込み) :10,000本 ◆新植・改植の推進 (上記苗木供給数より推定) H27-R2 累計:約 51ha ◆EU 向け青果輸出量 H28:4t → R3:2.3t ◆ワーキングホリデー事業参加者 H29~R3 累計:51名 (R3:8名) ◆新商品開発 R3:5種 (チューブタイプゆずゼリー、ベルガモットエッセシャルオイル、イタリアンソース、アールグレイ、ほん酢しょうゆ組合長) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じた生産量の確保 ・隔年結果及び品質低下対策 ・インターネット等を活用した新規顧客の獲得

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆新植・改植の推進</p>	<p style="text-align: center;">生産拡大と品質向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（安芸地区）： <ul style="list-style-type: none"> 計画的な新植・改植の推進 高齢化や労働力減少に対する樹形改造等による作業性の向上 検討会や勉強会の開催など栽培基本技術の徹底による生産量確保 母樹園地の管理指導と新規優良系統の探索 担い手の確保及び育成、担い手への園地の集約化に向けた取り組み ●JA 馬路村：新植・改植の推進による生産量の維持・拡大 <ul style="list-style-type: none"> 担い手の確保及びユズ産地を維持するための仕組みづくり ●県（農業振興センター等）： <ul style="list-style-type: none"> 検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底 サンテ被覆や摘果など高品質、隔年結果防止技術指導 ユズ園を守るための鳥獣害対策の検討 労働力確保に関する検討 優良系統の探索と情報提供 園地の集約化に向けた取り組み支援 				
<p>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p>	<p style="text-align: center;">安定供給と販路開拓の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（安芸地区）： <ul style="list-style-type: none"> 大手食料品メーカー等との契約継続による販売の安定化 ユズ協事業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出版売の拡大（シンガポール、北米、EU等） 食品産業をはじめとする異業種との連携 消費宣伝等による新たな需要の掘り起こし ●JA 馬路村： <ul style="list-style-type: none"> ユズを使った各種加工品の生産及び開発 スマホやインターネット等による通販の促進、商品の充実 首都圏等でのイベントへの参加やアンテナショップの活用による販路拡大 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 貿易、商談会等の紹介と情報提供、関係機関への橋渡し 各種支援施策の提案 				

AP名 (実施地域)	No.2 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト (室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、芸西村)
実施主体	◎JA 高知県 (安芸地区)、ゆめファーム全農 NEXT こうち、㈱アグリード土佐あき、安芸市担い手支援協議会、安芸市施設園芸品消費拡大委員会、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所、地元加工業者、加工グループ、地元飲食店、地域直販所、(一社)こうち絆ファーム
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を目指して、新技術の定着や担い手対策を進める。また、ナスの機能性表示を生かした青果販売や新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店等での利用促進に取り組み、クラスターの形成を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 出荷量(9～8月)	18,674t*	18,996t	19,119t	20,000t
(2) 新規加工品開発数	2件 (H29～R元累計)	2件	0件	3件 (R2～R5累計)

※H28.9月～R元.8月までの3ヶ年平均 (H30.9月～R元.8月の出荷量が突出して多かったため、前3ヶ年の平均値とする。)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産拡大と品質向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆめファーム全農 NEXT こうちとの栽培検討会の定期開催 (H29) ※R2はコロナ対策として個別指導を実施 環境制御技術の導入推進 (H26～) 安芸市担い手支援協議会幹事会の定期開催によるサポートハウスの現況確認、就農希望者の面談 (H28～) 安芸市農福連携研究会の定期開催による各関係機関の取り組み状況確認等 (H30～) <p>◆ナスを使った新規加工品の開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> JA女性部なすっこ組が6次産業化セミナー受講 (H30:7回、R元:1回)し、「なすまん」のブラッシュアップ及び新規加工品(ナス餃子)の開発 道の駅大山で麻婆ナス丼の販売開始 (H31.4月～) JA高知県プロデュースの複合施設「アグリコレット」での販売開始 (R元～) (ナス餃子、ながらし油～、なすまん2種) 安芸グループふぁーむが焼きなすソフトクリーム、焼きナスの豆乳アイスを開発 (R2) <p>◆ナスの消費拡大と認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ナス料理店マップの作成・配布 (8,000部) (H29) 「安芸市施設園芸品消費拡大委員会」のホームページにナス料理店マップを掲載 (R元～) 	<ul style="list-style-type: none"> ナス料理のレシピ動画を制作し「安芸市施設園芸品消費拡大委員会」のホームページ及び動画サイトで公開 (R2～) 市内ナス料理等提供店舗スタンプラリーの実施 (R2) ナスの機能性表示承認 (R2) ナス青果機能性表示パッケージの活用 (JA) (R2～) ナスの機能性PR動画の制作 (R2) 及び公開 (R3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ゆめファーム全農 NEXT こうちにおける10a当たり収量 H30:(土耕)18t→R2:(土耕区)10.7t、(養液区)22.8t→R3:(土耕区)30t、(養液区)35t 環境制御技術導入面積率 H27:12.7%→R元:44.1%→R2:45.9% 新規就農者数 (安芸市担い手協議会が関与した数) H28:1人→R元:6人 農福連携による雇用マッチング実績 (無料職業紹介所「アグリサポート」を介した数) H28:0人→R元:16人→R2:41人(生産者と:33人、JA出荷場と:8人)→R3:農家7人、多機能事業所17人(11月末まで) ナス料理のレシピ動画公開数 R2:8品、R3:2品 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる生産拡大と品質向上 環境制御技術の導入面積の拡大 ナス料理動画の継続及びバージョンアップ ナスを原材料とする加工品の販路開拓
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産拡大と品質向上の取り組み	<p>新技術の導入と担い手確保の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゆめファーム全農 NEXT こうち： 新技術を導入した高収量生産技術（30t/10a）の確立 ●JA 高知県（安芸地区）、(株)アグリード土佐あき： 環境制御技術の導入面積（目標 R5 90%）の拡大推進、アグリサポートによる労働力確保（農福連携等） ●安芸市担い手支援協議会、(株)アグリード土佐あき： 新規就農者の確保及び経営安定による早期営農定着支援 ●県（農業振興センター） 技術支援等の情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆ナスを使った新規加工品の開発・販売	<p>新規加工品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元加工業者、加工グループ： ナスを使った新規加工品の開発、試作品のイベント等での販売・磨き上げ ●県（地域本部等）：試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 <p>加工品の PR と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元加工業者、加工グループ： 新たに開発した加工品の PR 活動、販路開拓に向けた商談会等への出展 ●県（地域本部等）：高知県地産外商公社への橋渡し、産振アドバイザーの活用提案 				
◆ナスの消費拡大と認知度向上	<p>ナスの消費拡大や産地としての認知度向上の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安芸市施設園芸品消費拡大委員会： SNS や HP を利用したナスの機能性やナス料理レシピ等の消費拡大に向けた PR、消費地での販促活動（なす祭り等）や県内小中学校での出前授業 ●地元飲食店、地域直販所、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所： ナス料理提供による産地 PR、イベント開催（ナスの日等）、観光客等への提供店やイベントの周知 ●JA 高知県（安芸地区）： ナスの機能性表示を利用した販促活動 ●県（地域本部等）： 情報提供、関係機関への橋渡し、イベント開催の支援 				

AP名 (実施地域)	No.3 東洋町のポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興 (東洋町)
実施主体	◎フクチャン FARM、◎東洋町、ポンカン生産者、甲浦の果樹仲間
APへの 位置づけ	H24.4月
事業概要	東洋町の特産品であるポンカンを活用した加工品の開発を進めるとともに、移住・定住の促進による後継者の確保に取り組むことにより、地域振興を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)商品開発数	15商品 (H28～R元累計)	0商品		4商品※ (R2～R5累計)
(2)商品の販売数(1～12月)	6,574個 (H30)	7,940個		8,400個

※H28～R元の商品開発数については、新規参入したフクチャン FARM が H29 に 9 商品を一度に開発したため急増、今期計画においては、年 1 商品の開発を目指す。

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンカンを活用した商品の開発 (H22～) ・ポンカンドリンクのチラシ作成 (H24) ・関西方面での営業活動 (H24～) ・こうち産業振興基金 (建設業経営革新事業費補助金) を活用したポンカン栽培、ポンカンを使った新商品開発 ・食品メーカーとの連携による新商品の開発 (H29) ・イベント出展 (H28:6回、H29:3回、H30:4回、R元:4回、R2:1回) ・商談会参加 (H28:1回、H29:4回、H30:3回、R元:1回) <p>◆後継者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フクチャン FARM」が建設業から参入 (H28) ・高知求人ネットへの求人登録 (H29～) ・「東洋町ポンカン産地振興に関するアンケート」の実施 (H30) ・「ポンカン産地を考える会」の開催 (H30:1回、R元:1回) ・「ポンカン振興対策協議会」の設立 (R2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊による後継者確保事例視察 (R2:2カ所) ・地域おこし協力隊1名の雇用 (R3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆商品開発数 18商品 (H22～R2元累計) ◆加工品販売数 H27:3,250個 → H30:6,574個 → R元:7,949個 → R2:7,940個 ◆商談成約件数 H29:1件 → H30:2件 → R元:0件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客ニーズを踏まえた商品開発 ・外商活動の強化による販路開拓 ・担い手確保によるポンカン生産の維持 ・東洋町のポンカンの認知度の低さ
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大	<p>新商品の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ、販売促進活動</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●フクチャン FARM : 新商品の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ●甲浦の果樹仲間 : 営業活動による販路の開拓 ●東洋町 : 「海の駅 東洋町」での販売支援、イベント等での PR 活動 ●県（地域本部等） : 新商品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、その他各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し 				
◆後継者の確保	<p>移住・定住の促進による後継者の確保</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ポンカン生産者 : 「ポンカン振興対策協議会」への参画による支援策等の情報共有、こうち求人ネット等を活用した人材確保、インターネット等の活用、情報発信の強化、地域おこし協力隊の受け入れ ●東洋町 : ポンカン生産に向けた地域おこし協力隊の活用、移住支援策の充実などによる受入体制の強化、移住フェア等への参加 ●県（地域本部等） : 移住等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	<p>新規就農者の支援</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ●ポンカン生産者 : 「ポンカン振興対策協議会」への参画による支援策等の情報共有 ●東洋町 : 指導者の育成及び増員、就農希望者に対する遊休農地の活用提案 ●県（地域本部等） : 栽培技術や他地域等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 					

AP 名 (実施地域)	No.4 芸西村の白玉糖による地域活性化 (芸西村)
実施主体	◎芸西村製糖組合、◎大和リゾート(株)、芸西村、集落活動センターがいせい、生産者グループ
AP への 位置づけ	H24.4月
事業概要	伝統ある芸西村の白玉糖の生産を拡大し、白玉糖を活用した新商品を開発・販売することにより、ブランド化を図るとともに、白玉糖を活用した体験型観光を推進し、認知度の向上と地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
村内サトウキビ収穫量	19t (H30)	31t		25t
体験プログラム参加人数	21人 (R元)	21人		2,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆技術を継承する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製糖作業への参画を通じた人材確保・育成 <p>◆白玉糖の生産拡大・品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センターがいせいが耕作放棄地を活用してサトウキビ栽培を開始 (H28～) ・集落活動センターが白玉糖加工品を製造販売 (H30) ・ロイヤルホテル土佐の敷地内でサトウキビを栽培 (R2) ・ロイヤルホテル土佐のショップにて白玉糖及び白玉糖商品の販売開始 (R3) ・集落活動センターが県版 HACCP 旧 2 ステージの取得 (R3) ・HACCP 専門家派遣を芸西村伝承館等で受入 (R3) <p>◆体験メニューの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白玉糖炊き上げ体験メニューの実施 (H27) ・土佐の観光創生塾を受講し、体験プログラム (さとうきび収穫体験) を造成 (R2) ・県・芸西村・製糖組合・ロイヤルホテル土佐の 4 者による HACCP に対応した新施設の検討 (R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆製糖作業参加者の増加 R2 : 6名 → R3 : 7名 (1名増加)</p> <p>◆集落活動センターがいせいのサトウキビ栽培面積 H29 : 5 畝 → R2 : 7 畝</p> <p>◆ロイヤルホテル土佐のサトウキビ栽培面積 R2 : 400㎡ → R3 : 1,100㎡</p> <p>◆集落活動センターがいせいの白玉糖加工品の売り上げ H30 : 390 千円 → R2 : 908 千円</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製糖組合員の高齢化、伝統技術継承者の育成 ・村内のサトウキビの栽培方法の確立 ・白玉糖の品質向上と販路拡大 ・体験メニューの魅力向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆技術を継承する人材の育成	製糖を行う人材の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：集落活動センターがいせいと連携した人材確保、フェイスブックやインターネットの求人サイト等を活用した人材募集、情報発信の強化 				
◆技術を継承する人材の育成	製糖技術の継承				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：製造技術の習得、関連する研修等の受講、製糖作業のマニュアル化 				
◆白玉糖の生産拡大・品質向上	白玉糖の生産拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：脱葉機による収穫支援、耕作放棄されたサトウキビ畑の管理、SNS等を通じた製糖組合の取り組みについての情報発信の強化 ●芸西村：就農希望者に対する遊休農地の活用提案 				
	マニュアルの作成	マニュアルに沿った栽培			
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：栽培方法のマニュアル化 ●県（地域本部等）：他地域の状況等に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：マニュアルの磨き上げ ●県（地域本部等）：研修や他地域の状況等に関する情報提供 		
◆白玉糖の生産拡大・品質向上	衛生面の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合：製糖時の服装等を規定、研修・セミナー等の受講 ●芸西村：HACCP 対応のための新施設の設置の検討 ●県（地域本部等）：HACCP 研修等についての情報提供、HACCP 専門家派遣の提案及びフォローアップ 				
◆体験メニューの造成・磨き上げ	既存の体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸西村製糖組合、大和リゾート(株)：伝承館とロイヤルホテル土佐における既存体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発、情報発信の強化、事業者間の連携強化 ●芸西村：体験メニュー実施主体との協議によるメニューの検討・磨き上げ ●県（地域本部等）：アドバイザーの活用提案、補助金メニューの紹介、各種支援制度に関する情報提供、広報支援 				

AP名 (実施地域)	No.5 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 (室戸市、東洋町)
実施主体	◎室戸市木炭振興会、◎土佐備長炭室戸生産組合、◎土佐備長炭生産組合、◎上土佐備長炭東洋組合、◎備長炭生産者、室戸市、東洋町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	新規就業者の確保等により備長炭の生産量を拡大し、国内トップの備長炭産地として安定供給体制を築くことにより、地域における就業の場の創出と伝統産業の継承を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
生産量(年次)	1,284t (H30)	1,232t		1,534t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産者の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興会の設立 (H19.9月) ・土佐備長炭室戸生産組合の設立 (H28.8月) ・土佐備長炭生産組合の設立 (H21.4月) ・上土佐備長炭東洋組合の設立 (H30.9月) <p>◆従事者の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産業新規就業者支援事業を活用した研修生の受入 (H21~R3) 受入先：室戸市の生産者：21人 受入先：東洋町の実産者：23人 <p>◆生産施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した製炭窯等の整備 [室戸市木炭振興会] (現：土佐備長炭室戸生産組合) 研修窯 2基 (H21) 研修窯 1基 (H22) [土佐備長炭生産組合] 共同利用窯 2基 (H21) 共同利用窯 1基、保管庫 1棟 (H22) 共同利用窯 4基、フォークリフト 1台 (H25) 	<p><主な成果></p> <p>◆組織化による原木の一括購入により、原木の安定調達が可能となった [土佐備長炭生産組合、上土佐備長炭東洋組合]</p> <p>◆研修窯の設置等による新規就業者の増加</p> <p>研修生受入人数 (H21~R2) : 39人 → 研修後に就業した者 (R2時点) : 30人 → 研修中 (R3.11月時点) : 5人</p> <p>◆従事者や製炭窯の増加による生産量の増大 (H21~)</p> <p>H20 : 555t → R2 : 1,232t</p> <p>着実に成長を続け、H26以降、高知県の白炭生産量は全国一位。室戸市と東洋町で県内生産量の約90%程度を生産</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量のさらなる増加 ・生産量の増加に伴う製炭用原木の安定的な調達

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆従事者の拡大	新研修生の受入				
	<ul style="list-style-type: none"> ●備長炭生産者： 研修生の受入 ●室戸市、東洋町： 研修生の募集、特用林産業新規就業者支援事業を活用した補助制度の実施 ●県（林業事務所等）： 研修後の独立に向けた各種支援制度に関する情報提供 				
◆生産施設の整備	製炭窯の設置等				
	<ul style="list-style-type: none"> ●備長炭生産者： 研修修了者等の新規就業者が製炭窯や原木運搬車等の施設・機械を整備 ●県（林業事務所）： 生産施設の設置に係る融資制度や補助事業の導入への支援 				
◆原木林の造成	ウバメガシ人工植栽に関する情報収集等		スギ・ヒノキ人工林からウバメガシ人工林への林種転換		
	<ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、東洋町： ウバメガシを植栽する候補地の選定等 ●県（林業事務所）： ウバメガシの植栽・保育に関する技術情報の整理 		<ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、東洋町： 公有林へのウバメガシの植栽、保育施業の実施 ●県（林業事務所）： ウバメガシの植栽・保育施業への支援 		
<p>【用語】・備長炭：ウバメガシ又はカシ類を原木に用いて製造された白炭（窯外で消火する炭化法で製造された木炭）</p>					

AP 名 (実施地域)	No.6 馬路の林業加工品の販売促進 (馬路村)
実施主体	◎(株)エコアス馬路村、◎馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	販路の拡大や新商品の開発、生産性の高い加工機械の導入等により木材や木製品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営の安定化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 木製品出荷額	1.78 億円 (H30)	2.09 億円		2.13 億円
(2) 雇用者数(加工部門)	22 人 (H30)	22 人		22 人 (現状維持)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆営業力の強化</p> <p>[株]エコアス馬路村</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用による新商品の開発等の実施 (H21) 木製バッグ monacca シリーズへの新作の追加 (H21、H29) 新商品開発 (靴べら(Kutu-bera)) (H21~25) 展示会出展 (H21~30) monacca の塗装改良 (H24) ホームページのリニューアルによる直販の強化 (H25~) 国内外の展示会への出展等を実施 (H22) 産業振興推進総合支援事業費補助金 (ステップアップ事業) を活用した新商品の販売促進 (H29) <p>[馬路林材加工協同組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーを活用した販路開拓 (H30) <p>[馬路村森林組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品(骨壺、子供用ベッド)の開発 (H22) 工芸品の販売業務を(株)エコアス馬路村に移管 (H24) <p>◆収益性の改善</p> <p>[株]エコアス馬路村</p> <ul style="list-style-type: none"> レーザー加工機 1 台の導入 (H29) 	<p>[馬路林材加工協同組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 送材車 1 台、帯鋸盤 1 台の導入 (H24) 乾燥機 1 基の導入 (H26) 経営コンサルタントを活用した事業戦略の策定及び支援 (H30、R 元~) ツイン丸鋸盤 1 台・自動スタッカー 1 台の導入(R 元) モルダー1 台の導入予定 (R3) <p>[馬路村森林組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営コンサルを活用した中期経営計画の策定(H24) 丸棒削機 1 台、乾燥機 1 基の導入 (H25) <p><主な成果></p> <p>[株]エコアス馬路村</p> <ul style="list-style-type: none"> 塗装の改良や新商品開発による販売アイテムの充実 ウェブサイトやカタログなど営業推進ツールの充実 <p>[馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した加工機械の入れ替えにより生産性が向上 乾燥機の導入により製材品の乾燥品質が向上 <p>[馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各職員が経営者的な感覚で、目標を掲げて業務を遂行する姿勢を持つようになってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 木材や木製品の販路の拡大 馬路村産の木材等の総合的なブランディングによる差別化 新たな営業・販売の手法やルートの確立

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆営業力の強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: left;">販路の開拓</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 首都圏で開催される木製品販売に関連した展示会への出展 産振アドバイザーを活用した都市部の工務店への企業訪問 製品の品質やラインナップをユーザーに伝えるための商品カタログ等の製作やウェブサイトの改修 村と一緒に都市部の自治体が森林環境譲与税を活用して木材利用に取り組む案件に対する働きかけ ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金や産業振興アドバイザーなどの活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供 				
◆収益性の改善	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: left;">新商品の開発</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村：新商品のアイデアの公募や企画会議の実施、試作品の製作や利用モニタリングの実施、新商品の製造 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供 				
◆収益性の改善	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: left;">加工機械の導入</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合、馬路村森林組合： <ul style="list-style-type: none"> 加工精度の低下や故障の頻発が生じている老朽化した加工機械の入れ替え等による品質や生産性の向上 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供 				
◆収益性の改善	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: left;">経営体質の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 経営コンサルタントを活用した事業戦略の策定、実行支援による仕入れや生産等の管理の強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】・丸棒：原木を円柱状に削って加工したもの。木製遊具等に利用される。</p>					

AP名 (実施地域)	No.7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 (戸海市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町)
実施主体	【漁業者】◎(株)美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会、中芸定置網漁業振興協議会 【水産加工業者】◎(有)タカシン水産（佐喜浜工場）、◎(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)漁業者による加工品販売額	45万円 (H30)	63万円		300万円
(2)水産加工業者の販売額	2.5億円 (H30)	2.3億円		3億円

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆漁業者による加工品の製造販売

(定置網漁獲物)

・定置網で漁獲される小イカ、ハダカイワシなどの低利用魚の簡易加工品を試行 (H26)

(近海マグロ)

・室戸沖合鮪漁業船主組合の若手船主を中心として、近海マグロのPRを目的に「土佐室戸鮪軍団」を結成、学校での出前授業や加工品の開発、イベントでの試験販売等の取り組みを開始 (H29～)

・マグロの内臓の加工品開発 (H29～)、首都圏飲食店でのフェアメニューやふるさと納税返礼品として採用、アンテナショップや道の駅での販売開始 (H30～)

・室戸市企業立地促進事業費補助金を活用した新加工場建設事業の開始 (R3)

・高知県新事業チャレンジ支援事業費補助金を活用した加工機器の新規導入 (R3)

◆水産加工業者による加工品の製造販売

(有)タカシン水産

・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した水産加工施設の整備及び地域の定置網漁獲物を中心とした加工事業の開始 (H21～)

・主力の「しめサバ」に加え、ギフト用漬け商品、マジカフ

レーク、キンメダイフィレなどの定番商品を販売

・ふるさと納税返礼品として取り扱い (H27～)

(有)山本かまぼこ店

・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）を活用した商品開発及び新工場の基本設計等事業の開始 (R2～)

・高知県新事業チャレンジ支援事業費補助金活用による設備導入 (R3)

・ジャパン・インターナショナルシーフードショー参加 (R3)

＜主な成果＞

◆マグロ内臓の加工品販売額

H29：0円 → H30：45万円

→ R元：50万円→R2：63万円

◆水産加工品販売額

H22：0.35億円 → H30：1億円

→ R元：0.85億円→R2：2.3億円

＜課題＞

・長期間保存できる商品の開発などによる販路拡大

・製造・販売体制の確立

・さらなる販路開拓、販売促進

・建設資材等高騰のための施設整備費の上昇（(株)美阿丸、(有)山本かまぼこ店）

・生産性の向上、衛生管理体制の強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆漁業者による加工品の製造販売</p>	<p>商品開発、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会： <ul style="list-style-type: none"> 試作品づくり、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への参加による販路開拓 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、その他各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し <p>施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)美阿丸： <ul style="list-style-type: none"> HACCPに対応した施設整備 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 <p>近海マグロのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐室戸鮪軍団： <ul style="list-style-type: none"> 各種イベントでの「マグロ解体ショー」の実施やマグロ加工品の販売等による広報実施 				
<p>◆水産加工業者による加工品の製造販売</p>	<p>生産性向上と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)タカシン水産、(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓： <ul style="list-style-type: none"> 販路開拓、商品開発、衛生管理体制の構築 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し、衛生管理に関する講習会等の紹介 <p>施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)山本かまぼこ店： <ul style="list-style-type: none"> HACCPに対応した施設整備 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振総合補助金の活用 				

AP名 (実施地域)	No.8 室戸海洋深層水による地域産業の推進 (室戸市)
実施主体	◎深層水関連事業者、室戸市
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	スジアオリ養殖事業のさらなる発展や、深層水商品のブランド化による販売力の強化、海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みにより、地域産業の推進を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
スジアオリの生産量(高岡漁港)	3.3t (H30)	3.6t		3.6t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆スジアオリ養殖事業のさらなる発展</p> <ul style="list-style-type: none"> スジアオリの小袋商品を「まるごと高知」や各種イベントなどで販売 (H22~23) 三島食品(株)が指定管理による委託を受け、スジアオリの養殖を開始 (H27~R7.3 未予定) <p>◆深層水商品のブランド化による販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知県、室戸市、高知大学、深層水利用企業が連携して海洋深層水の機能性評価事業(飲用試験等)を実施 (H26~28) <p>◆海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋深層水による地域産業の推進に向けた勉強会の開催 (R元~2) 室戸市海洋深層水推進構想検討委員会を開催し、室戸市海洋深層水推進構想を策定 (R2) 構想にかかる関係者間の協議 (R3.4月、6月、7月、9月) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> スジアオリの生産量 H26 : 2.4 t → H30 : 3.3 t → R元 : 3.7t → R2 : 3.6t 臨床試験により、海洋深層水の腸内環境の改善効果が証明された (H29) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> スジアオリの増産に必要な土地や人員の確保 機能性を生かした商品開発・販路拡大 海洋深層水推進構想に基づく事業の検証、発展

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆スジアオリ養殖事業のさらなる発展	<p>スジアオリ養殖事業の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●深層水関連事業者： スジアオリの高品質化と生産拡大 ●室戸市： スジアオリの増産に向けて必要な土地や人員の確保を検討 				
◆深層水商品のブランド化による販売力の強化	<p>深層水商品のブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●深層水関連事業者： 県内外へのPR（HP、SNS等各種媒体の活用） ●室戸市： 県内外へのPR（HP、SNS等各種媒体の活用）、室戸市民や観光客へのPR ●県（地域本部等）： 海外へのPR（視察者や学会発表）、県外でのイベント出展、プロモーション 				
◆海洋深層水を活用した新たな地域振興の取り組みの推進	<p>海洋深層水を活用した地域振興に向けた構想づくり、事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ●深層水関連事業者、室戸市： 海洋深層水を活用した地域振興に向けた構想づくり、構想に基づく事業の展開、組織体制の検討 ●県（地域本部等）： 構想づくりや事業展開に向けて産振アドバイザーの活用や産振総合補助金（ステップアップによる事業を含む）の活用を提案、県内外へのPR（HP、SNS等各種媒体の活用）、情報発信支援 				

AP名 (実施地域)	No.9 キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大 (室戸市)
実施主体	◎協同キラメッセ室戸(有)、◎室戸市
APへの 位置づけ	H25.4月
事業概要	道の駅キラメッセ室戸「楽市」を拠点とし、地域製品の充実や販売を促進するとともに、周辺施設等と連携することで、地産地消・外商及び交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)売上高	4.1億円 (H30)	3.2億円		4.2億円
(2)レジ通過者数	251,612人 (H30)	212,342人		260,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合経営拠点化に向けた協議会の開催 (H28~H30:11回) ・各種アドバイザーの活用による売上分析、売り場づくりや動線見直しの実施 (H29~H30:4回) ・直販所のレイアウト改装 (R元) <p>◆農産物の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭先集荷開始 (H28~) ・新品目生産のための生産者説明会の開催 (H29~) ・集荷日数・ルートの拡充 (H30~) <p>◆加工品の開発、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税返礼品等の拡充 (H26~) ・6次化セミナー実践コースの受講 (H28~R元:8回) ・秋津野ガルテン(和歌山県)等視察 (H29) ・6次化セミナーを通じて開発した商品の販売 (R元~) ・HACCP研修参加 (R2.10月) ・県外道の駅との連携模索 (R3.10月、12月) 	<p><主な成果></p> <p>◆商品開発数 H28:4品 → H30:7品 → R元:0品 → R2:0品</p> <p>◆ふるさと納税返礼品の拡充 H27:39品 → H30:92品 → R元:72品 → R2:73品</p> <p>◆ふるさと納税額 H27:7,555万円 → H30:13,626万円 → R元:8,311万円 → R2:5,934万円</p> <p>◆庭先集荷した野菜等の出荷額 H29:27万円 → H30:153万円 → R元:157万円 → R2:146万円</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物出荷者の高齢化に伴う集荷体制の強化 ・加工品や農産物(特に夏場)等の商品不足
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆農産物の確保	集荷体制の強化・栽培品目の選定				
	<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 庭先集荷の利用者数増のための説明会開催、庭先集荷ルート拡大の検討（新たな集荷ルートの開拓、集荷日数の増加、利用者増に向けた働きかけ等）、収益性のある品目の選定及び生産者の決定 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆加工品の開発、販路拡大	実証圃の継続		栽培品目の選定、自家栽培の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 実証圃における実証栽培の継続実施 ●県（地域本部等）：農業技術の指導等 		<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 収益性のある品目の選定、自家栽培の検討 ●室戸市 : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し、周辺環境整備に向けた説明会実施（農地の選定等） ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		
◆加工品の開発、販路拡大	加工品の開発、販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●協同キラメッセ室戸(有) : 加工品の開発、ネット通販の強化、県外の道の駅等との連携によるPR強化（お互いの加工品等を他道の駅で販売等） ●室戸市 : ふるさと納税返礼品への積極的活用、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.10 室戸市中心市街地の活性化 (室戸市)
実施主体	◎室戸市商工会、◎室戸市
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	新たに策定する室戸市中心市街地振興計画に基づき、空き店舗や地域資源を活用した取り組みなどを進めることで室戸市中心市街地の魅力を高め、住民や観光客の利用促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
中心市街地での事業所の 新規開業	—	3件		2件 (R2～R5 累計)

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市中心市街地振興協議会の設立 (R元) ・室戸市中心市街地振興協議会、同ワーキンググループにおける協議 (R元) ・商店街事業者と室戸市との意見交換会を開催 (R3.6) ・室戸市中心市街地振興協議会における協議 (R3.11、12) <p>◆既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ「Go・ムロト」事業開始 (H30) チャレンジャー5名 (H30～R3) ・イベント実施 まちゼミ開催 (R元.11、R2.4) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆室戸市中心市街地振興協議会ワーキンググループでの議論を踏まえた振興計画の策定 (R2) ・商店街内にチャレンジショップ卒業生による空き店舗を活用した事業所の開業 (R3.6)、イベントの開催 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の人口減少や空き店舗の増加などによる商店街の魅力低下

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施	新たに策定された中心市街地振興計画に基づく取り組みの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市商工会、室戸市： 具体的な事業内容の検討・実施、商店街等振興計画推進事業費補助金の活用の検討・実施 ● 県（地域本部等）： 室戸市中心市街地振興協議会に参画し振興計画の活性化施策の実施を支援、産業振興アドバイザーや産振総合補助金（ステップアップによる事業を含む）の活用を提案、各種支援制度などの情報提供 				
◆ 既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進	新規出店者の育成（チャレンジショップ事業）				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市商工会、室戸市： チャレンジショップのチャレンジャーの募集及びチャレンジャーへの経営指導、SNS等による情報発信、商店街への出店支援 ● 県（地域本部等）： チャレンジショップ事業に対する支援、情報発信 				
	賑わいの創出（イベント実施）				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市、室戸市商工会： まちゼミなどの誘客イベントの検討及び実施 ● 県（地域本部等）： 協議の場への参画におけるアドバイス、イベント情報発信 				
地域おこし協力隊の募集・雇用					
<ul style="list-style-type: none"> ● 室戸市： 中心市街地振興を専従とした地域おこし協力隊募集・雇用の開始 ● 県（地域本部等）： 募集情報の発信等支援 					

AP 名 (実施地域)	No.11 安芸本町商店街を中心とする地域の活性化 (安芸市)
実施主体	◎安芸本町商店街振興組合、安芸商工会議所、安芸市
AP への 位置づけ	H29 年 4 月
事業概要	にぎわいと活力のある商店街を目指し、地域内外から人が集まる仕組みづくりや商店街の魅力 を高める取り組みを進めることで商店街や周辺地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 2	R 3	R 5
空き店舗等を活用した新規 開業	0 件 (H30)	0 件		3 件 (R2~R5 累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商店街を中心とする地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全国商い甲子園大会」開催 (H20~) <ul style="list-style-type: none"> H29 : 実行委員会 10 回 H30 : 実行委員会 10 回 R 元 : 実行委員会 12 回 ・きさらぎ市の開催 (R 元) ・空き店舗の活用 (チャレンジショップ) <ul style="list-style-type: none"> カプリス (H28.5.29~10.29) かまん東川 (カプリス内 : H28.6.4~10.29) 漁師の食卓 (H28.12.11~H29.6.25) 居酒屋「集い」(H29.7.10~H30.3.20) (コミュニティスペース「満子の部屋」) 産業振興アドバイザー活用によるワークショップの開催 (H29) 「満子の部屋」の開設 (H30~) (こうち絆ファーム) 空き店舗に作業所を開設 (R 2) ・移動販売事業の委託 (H28~) ・安芸市中心商店街等振興協議会の設置・開催及び ワークショップの開催 (R 3~) ・商店街内のギフトショップを中核とした市内事業者グル ープによる地域産品コラボギフトの企画・販売 (R 2 ~) 	<p><主な成果></p> <p>◆商店街を中心とする地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国「商い甲子園」大会 <ul style="list-style-type: none"> 第 9 回 (H28) : 1,200 人来場 第 10 回 (H29) : 1,100 人来場 第 11 回 (H30) : 1,100 人来場 第 12 回 (R 元) : 1,200 人来場 令和 2 年度及び令和 3 年度はコロナ禍のため中止 ・きさらぎ市 (R 元) : 1,200 人来場 ・空き店舗の活用 (チャレンジショップ) チャレンジショップの卒業者を含む 2 事業者が、安芸 市内の買い物困難地域を中心に週 4 ~ 6 日間移 動販売を実施 (コミュニティスペース「満子の部屋」) イベント等利用者数 H30 : 917 名 R 元 : 625 名 ・安芸市中心商店街等振興協議会ワークショップに約 40 人が参加し、取組のアイデア出しと実現に向けた 詳細な検討を実施 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心商店街等の振興に向けた中長期的な計画づくりに おける事業者の主体性の醸成と維持 ・商店街組織及び周辺事業者の連携強化 ・個店の活性化に結びつく活動 ・コロナ禍におけるイベントの開催方法

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商店街を中心とする地域の活性化	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;">活性化に向けた方向性の検討</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;">商店街振興計画(仮称)の策定</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; background-color: #0070c0; color: white;">振興計画に基づく具体的な取り組みの実施</div> </div>				
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合、安芸商工会議所： ワーキンググループによるワークショップの開催 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案・情報提供 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合、安芸商工会議所： 商店街活性化協議会(仮称)の設置、計画策定 ●県（地域本部等）： 協議会や計画づくりに関する先進事例等の情報提供 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合、安芸商工会議所： 計画に基づき、具体的な取り組みを実施 ●県（地域本部等）： 計画の進捗状況を把握、状況に応じた支援策の提案 </div> </div>				
	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">イベント等の企画・実施</div>				
<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合： 全国商い甲子園大会の拡充及び経済面での波及効果に結びつけるための手法の検討 「満子の部屋」の利用者増加に向けた活動支援 他の団体や学校と連携し、商店街をフィールドとして実施するイベントの企画・実施 HP や SNS などを利用した情報発信 ●県（地域本部等）： イベント等の企画・実施に積極的に関わり、状況に応じた支援や情報提供を実施 </div>					
<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">商店街組織の体制強化</div>					
<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●安芸本町商店街振興組合： 商店街店舗間で情報共有する仕組みの構築 商店街での新規開業希望者向けの空き店舗情報の収集・提供 来店者への他店舗の情報提供など個店の連携による商店街の周遊促進・消費拡大 中山間移動販売などの商店街に通えない顧客に対するサービスへの取り組み ●県（地域本部等）： 空き店舗の利用者募集や情報発信について関係課への橋渡しやアドバイザーの活用提案等の支援 </div>					

AP名 (実施地域)	No.12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興 (東洋町)
実施主体	東洋町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	高知県の東の玄関口である東洋町の観光の窓口及び地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」を核とした交流人口の拡大により、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)売上高	1.68 億円 (H30)	1.35 億円		1.76 億円
(2)来場者数	177,809 人 (H30)	140,231 人		187,000 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆運営体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海の駅東洋町」の整備 (H20.1月) ・火災による焼失 (H24.7月) ・産業振興推進総合事業費補助金を活用した再建 (H25.12月)、運営再開 (H26.1月～) ・教育旅行の受入 (H28:1回、H29:2回、H30:2回、R元:0回) ・駅長(責任者)の雇用 (H29～R元) ・弁当、惣菜部門の創設及びスタッフの雇用 (H30～) ・地域おこし協力隊2名の雇用 (R3) <p>◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバやトマト等を活用した加工品開発及び試験販売(パスタソース、カレー、丼) (H29) ・近隣の調理場を活用した弁当、惣菜づくり (H30～) ・ポンカンピールを使用したお土産品の開発及び販売(チョコレート、クッキー等) (R2～) ・ポンカン食パンの販売 (R3) <p>◆誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの開催 (H28:3回、H29:4回、H30:5回、R元:3回) ・イベントへの出店 (H28:2回、H29:11回、H30:16回、R元:10回) ・農林水産物直販所運営管理者及び安心係等発展講集会参加 (H29) ・直販市活性化セミナー受講 (H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の駅の駐車場などを活用したイベント誘致 (kawasaki 主催のバイクイベント (H31)) ・高知6次産業化サポートセンターよりプランナー派遣 (R元～R3) ・キャッシュレス対応化 (R2～) ・レストラン部門のオペレーションを見直し、新メニューの提供開始 (R3) ・地域力創造アドバイザーの導入 (R3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当、惣菜部門の創設による商品ラインナップの充実の結果、レストラン利用に加え新たな客層を開拓し、売上につなげることができた。 ・サバを活用した漁師料理「じゃんじゃん丼」等をレストランでメニュー化の結果、集客力の向上及び東洋町の特産品のPRが図れた。 ・動線の見直し及び売場のレイアウト変更の結果、店内の回遊性が向上し、効率的な売場づくりにつながった。 ・バイクイベントの開催 (H31.4.21)により、一層の誘客(対前年同日比(客数)120%、(売上)128%)を図ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗の狭隘対策 ・特産品の開発と販路拡大 ・集客強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 運営体制の強化					
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：専門家等を活用した勉強会の実施 ● 県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用の提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：専門家等を活用した研修の実施 ● 県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用の提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：地域力創造アドバイザーの活用 ● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆ 地域特産品を活用した加工品の開発・販売					
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：新商品の検討・開発・販売、町内外のイベント出店、ふるさと納税への出品 ● 県（地域本部等）：試作品づくりへのアドバイスを求めるための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し 				
◆ 誘客の促進					
	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋町：店内レイアウトの変更、ワークショップ・マルシェ等イベントの実施・誘致、SNSを活用した情報発信 ● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.13 有害鳥獣等を活用したペットフードの開発と販路開拓 (東洋町)
実施主体	◎(株)熊谷ファーム、(株)マルキョウ
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	有害鳥獣であるイノシシやシカなどを利用して、食肉加工のほか町内で未利用となっている魚や野菜と組み合わせたペットフードを生産・販売するための加工施設を整備し、生産・販売体制を確立することにより、ジビエ振興による地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
売上高	101万円 (H30)	86万円		2,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆原材料の安定確保 <ul style="list-style-type: none"> ・原材料となる有害鳥獣の確保に向けた仕組みの構築、事業者での有害鳥獣引き取りの開始 (R2) ◆商品開発と販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・こうち農商工連携基金を活用した長期保存可能なペット用備蓄・防災フードの開発等 (H29) ・高知市ペットフード会社との連携 (H29) ・インターネット店舗で販売開始 (H30) ・ふるさと納税で取扱い開始 (H30～) ・イベントへの出店 (H29:5回、H30:4回) ◆加工施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・既存公共施設(廃校跡)を加工場として活用 (H28～29) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆商品開発と販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・(株)マルキョウの取り組み 魚の干物のペットフード 21種類を開発、販売 ・(株)熊谷ファームの取り組み イノシシ、シカ等の干物のペットフード 8種類を開発、販売 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣等の安定確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆原材料の安定確保	<p>原材料の安定確保に向けた仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)熊谷ファーム： 東洋町と連携して原材料となる有害鳥獣の確保に向けた仕組みを構築、有害鳥獣の取り扱いについて狩猟者への啓発を実施 ●県（地域本部等）： 協議の場への参画によるアドバイス、情報提供 				
◆商品開発と販路拡大	<p>新商品開発・商品のブラッシュアップ、プロモーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)熊谷ファーム、(株)マルキョウ： コンセプトづくり、試作品づくり、市場調査（消費者の意見集約）、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 商品開発のための産振アドバイザー等の活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し 				
◆加工施設の整備	<p>加工施設の整備の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)熊谷ファーム： 加工施設の整備の検討 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等の活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.14 地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大 (奈半利町)
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、◎奈半利なんでも市加工グループ、◎NCL48、JA 高知県(安芸地区)
APへの位置づけ	H26.4月
事業概要	集落活動センターが中心となり、地域食材を活用した特産品の企画・開発を促進するとともに、情報発信や販促の強化により奈半利ブランドを確立し、地域経済への波及効果の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) JA 加工施設(奈半利味噌)の売上高	677万円(H30)	723万円		912万円
(2) 農水産加工施設の店舗売上高	800万円(R元見込)	1,256万円		900万円
(3) 集出荷センター取扱高(7~6月)	5.4億円(R元.7月~R2.6月見込)	0.45億円		6億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地産外商の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用による施設の増床及び機械の追加導入(JA加工施設)(H26) 新商品開発、担い手人材育成のためのエリアマネジメントを実施(奈半利のおかって)(H26) 地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の整備(奈半利のおかって)(H28) ネット通販事業の開始(H28~) 複合経営拠点支援事業補助金等活用した集出荷施設の整備(H29) 新商品開発(缶詰)(H29~) 奈半利味噌やイチジクジャム等のとさのさとへの出品(R元~) 奈半利のおかって商品の「地のもん市場ハレタ(土佐市)」への出品(R2~) <p>◆運営体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売促進や運営上の課題等に関する定期的な協議 うちんくのビジネス塾への参加(R2) 	<ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーの派遣(R3) <p>◆一次産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 農作業受託用のオペレーター受託(H28~) 農作物の生産開始(H28~) 集落活動センター推進事業補助金を活用した備品整備(H29) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ふるさと納税額(R2.5月~R4.6月まで停止中) H28:20.3億円 → H30:37.6億円 → R元:4.2億円 → R2:0.4億円 ◆農作業受託件数 H29:75件 → H30:89件 → R元:145件 → R2:212件 ◆農作物 いちじく作付け面積 H29:0a → R3:2.8a <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税に依存しない事業運営体制の構築 加領郷魚舎の活用

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地産外商の強化	新商品の開発・既存商品の磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利なんでも市加工グループ、NCL48 : 新商品の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ ● 県（地域本部等） : 新商品開発・既存商品磨き上げのための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	ふるさと納税を活用した地産・外商の強化				
◆運営体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利町、(一社)なはりの郷 : ふるさと納税の返礼品となる商品の磨き上げ支援、情報発信の強化 ● 県（地域本部等） : 商品の磨き上げのための産振アドバイザー等の活用提案、各種セミナー等の情報提供 				
	通販サイトの充実・通販サイトを活用した特産品販売の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利町、(一社)なはりの郷 : R 元に開設した通販サイトの企画・運営、サイト内容の充実による特産品の販売促進 ● 県（地域本部等） : 通販サイトの運営などに関する産振アドバイザー等の活用提案 				
◆一次産業の振興	後継者の確保及び育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈半利なんでも市加工グループ、NCL48 : (一社)高知県移住促進・人材確保センターを活用した人材確保、職場環境の見直しや衛生管理技術向上に向けたセミナー等の受講 ● 県（地域本部等） : セミナー等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆一次産業の振興	農作業受託・新規就農者受入等の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (一社)なはりの郷、奈半利町 : 農作業受託の推進に向けた広報、地域おこし協力隊の募集・活用による人材確保 ● 県（地域本部等） : 農業技術の指導等 				

AP 名 (実施地域)	No.15 田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用 (田野町)
実施主体	◎田野町、民間事業者
AP への 位置づけ	H24.4 月
事業概要	製塩体験施設での塩づくり体験を通じて交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 2	R 3	R 5
(1) 体験施設受入人数	269 人 (H30)	64 人		700 人
(2) 塩関連での就業者数	2 人 (H30)	2 人		10 人※ (R2～R 5 累計)

※出発点 (H30) の 2 名を含む。

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光拠点等整備事業費補助金を活用した塩づくりの過程を見学・体験できる施設の整備 (H24) 製塩体験施設のオープン (H25.4 月) 地域おこし協力隊の導入 (H25～) 台風被害による施設損壊のため休止 (H26.8 月～H27.4 月) 新たな体験メニューの実施 (H27～) 塩に関する掲示物の作成及び多言語対応 (H27) スタッフの不足により休館 (H29.10 月～H30.5 月、H31.4 月～R 元.5 月) 体験プログラムイベント「ゆず FeS」におけるプログラムの実施 (H30) 町内ガイド組織による製塩体験施設のガイド・体験案内の実施 (R 元～) <p>◆新規就業者の育成・環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した製塩研修施設の整備 (H29) 天日塩生産用レンタルハウスの建設 (R 元、R 3) 新規研修生 2 名の受け入れ (R 2～) 	<p>◆関連産業への波及</p> <ul style="list-style-type: none"> 「道の駅田野駅屋」で完全天日塩を使用した塩ラーメンを期間限定で販売 (R 2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 体験施設のスタッフをしていた地域おこし協力隊が、期間満了により研修施設に移ったため、体験施設が休館となる時期があったものの、利用者増に向けた安定的な施設運営のための町内ガイド組織による運営体制が整備できた。 新たに製塩研修施設が整備されたことにより、塩職人の育成体制が整った。 生産用レンタルハウスが整備されるなど、製塩研修修後の独立に向けた環境整備が進んでいる。 R3.7 月に研修生 2 名が独立。田野屋青蜂、白鯛の屋号での就業と田野駅屋での塩の販売が開始された。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 製塩体験プログラムの磨き上げや PR の強化 新規就業者の定着、独立に向けた環境整備 新規就業者の確保 塩関連商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増	施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの造成とさらなるPRによる誘客増				
	<ul style="list-style-type: none"> ●田野町： 施設運営のための人材の確保、新たな体験メニューの検討、SNS等による町内外へのPR ●県（地域本部等）： 新たな体験メニューのための各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆新規就業者の育成・環境整備	新規就業者の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●田野町： 移住フェアへの参加等を通じた人材の確保 ●県（地域本部等）： 情報提供、(一社)高知県移住促進・人材確保センターなどの関係機関への橋渡し 				
	新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整				
◆関連産業への波及	加工品開発の支援、販路拡大の支援等				
	<ul style="list-style-type: none"> ●田野町、民間事業者： 民間事業者との情報共有、町内事業者等への情報提供 ●県（地域本部等）： 商品開発・販路拡大のための各種アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供、商談会等の紹介、関係機関への橋渡し 				
	新規就業者の確保				
◆関連産業への波及	<ul style="list-style-type: none"> ●田野町： 移住フェアへの参加等を通じた人材の確保 ●県（地域本部等）： 情報提供、(一社)高知県移住促進・人材確保センターなどの関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.16 道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み (田野町)
実施主体	◎道の駅指定管理者（たの未来プロジェクト㈱）、◎田野町、加工施設指定管理者（中芸食材工房）、生産者組織、地域団体
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	田野駅屋の集客力を最大限に活用し、地域の特産品の直販機能や観光情報の発信機能を強化するとともに、地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。 さらに、今後の田野駅屋のあり方について、施設整備等も含めた検討を行い、さらなる地域の活性化をめざす。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 年間店舗売上高 (1～12月)	2.7 億円 (H30)	2.3 億円		2.8 億円
(2) 年間入込数 (1～12月)	278 千人 (H30)	228 千人		300 千人

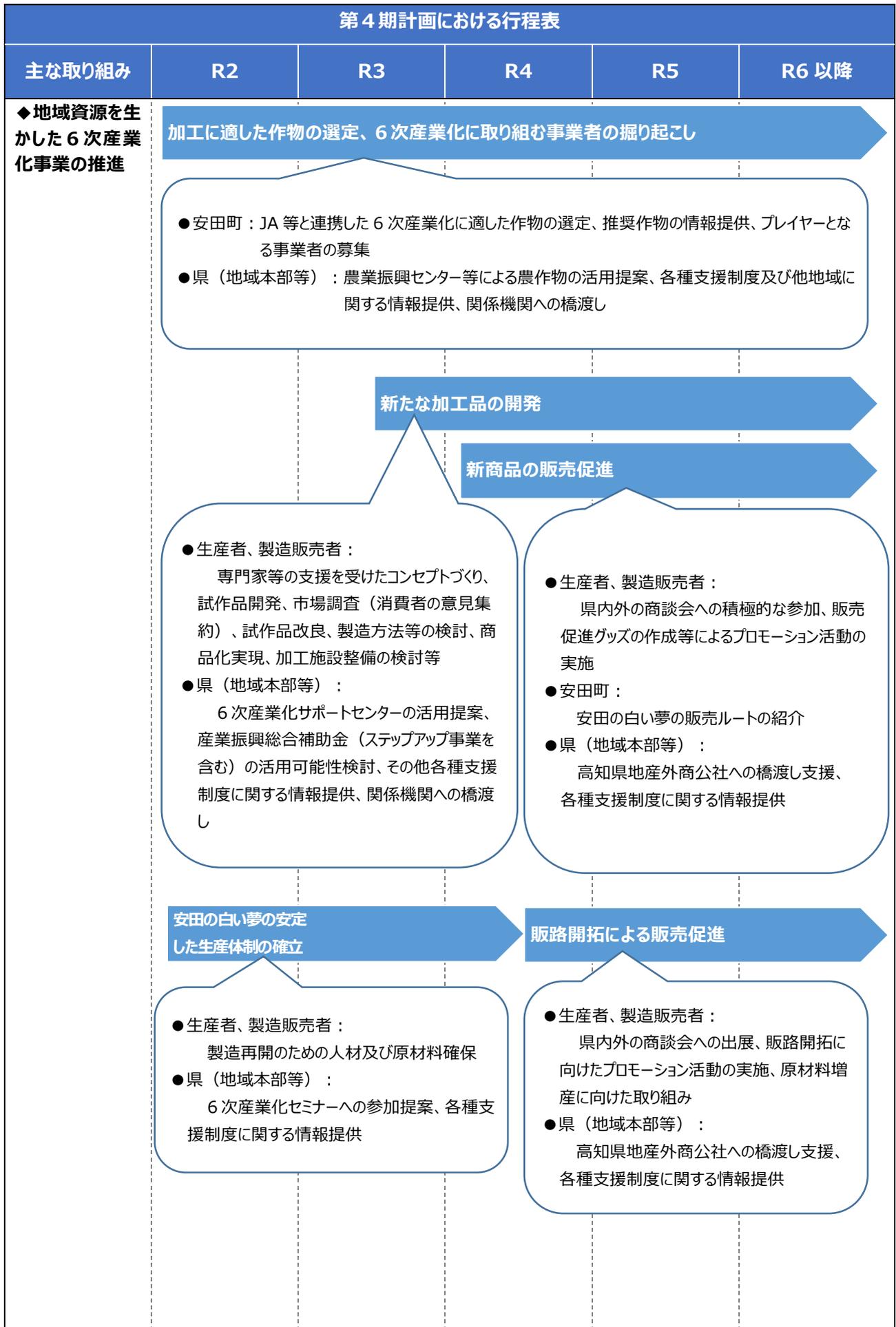
これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆機能強化のための施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの洋式化及び WiFi 整備 (H28) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用したレンタサイクル小屋の整備 (H30) <p>◆直販・飲食機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新メニューの開発 (H30) ・中芸高校生オリジナルレシピ「田野学館弁当」の販売開始 (H30～) ・町 100%出資の「たの未来プロジェクト㈱」が道の駅指定管理者として運営開始(R 元～) <p>◆情報発信機能の強化・交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加や独自イベントの開催 (H21～) ・田野駅屋拡張による情報発信コーナーの整備 (H23) ・GW 期間中の臨時観光案内所の開設 (H23～) ・ごめんなはり線ウォーキングイベントの受入れ (H22～) ・田野町、道の駅指定管理者、地域本部で情報共有会議の実施 (H28～30) 	<p>◆加工品の開発・販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒粕スイーツの開発（「蔵乃風」、「蔵人の菓」等）・販売開始 (H22～) ・新たなスイーツの開発（塩シャーベット「塩姫」、生姜のお菓子「爪の垢」等）、販売開始 (H24～) ・田野お土産 BOX の販売開始 (H30～) ・完全天日塩を使用した塩ラーメンを期間限定で販売 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・20 万人超の入込数と 2 億円超の売上高を安定的に維持し、消費拡大及び地域の活性化に貢献している。 ・地域の特産品販売や中芸以东の観光情報発信の拠点として地域の活性化に貢献している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能強化のための施設等整備 ・加工品の開発及び販売の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆機能強化のための施設等整備	<p>店舗や駐車場の拡張などの施設等整備の検討、計画の策定</p> <p>●田野町、道の駅指定管理者： 田野駅屋の機能強化に向けた施設等整備の検討、基本計画の策定など具体的な準備</p> <p>●県（地域本部等）： 施設等整備に向けた各種アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供</p>				
◆直販・飲食機能の強化	<p>課題の洗い出しと改善</p> <p>●道の駅指定管理者、田野町： 売上高の分析、商品等の見直し、各種セミナーの活用、テナントスペースの活用</p> <p>●県（地域本部等）： 機能強化のための各種アドバイザーの活用提案、各種セミナー等の紹介、関係者への橋渡し</p>				
◆情報発信機能の強化・交流人口の拡大	<p>顧客のニーズ把握とインターネット・ガイドマップ等を活用した情報発信</p> <p>●道の駅指定管理者、田野町： 情報発信における課題等の検証、専門家を活用した情報発信のスキルアップ</p> <p>●県（地域本部等）： 情報発信のための各種アドバイザーの活用提案、各種セミナーの紹介</p>				
◆加工品の開発・販売の強化	<p>素材の掘り起こし、生産者と連携した加工品づくり</p> <p>●道の駅指定管理者、田野町、加工施設指定管理者、生産者組織、地域団体： 新商品開発の検討・開発・販売、既存商品の磨き上げ</p> <p>●県（地域本部等）： 商品づくりのための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</p>				

AP 名 (実施地域)	No.17 やすだ資源を生かした6次産業化事業の推進 (安田町)
実施主体	◎安田町、生産者、製造販売者
AP への 位置づけ	H24.4月
事業概要	安田町内の地域資源を生かした6次産業化事業に取り組み、新商品開発、販路開拓・拡大による地産外販を推進する。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 地域資源を使った新商品開発	0件 (H30)	0件		3件 (R2~R5 累計)
(2) 6次産業化参入事業者	0件 (H30)	0件		2件 (R2~R5 累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域資源を行かした6次産業化事業の推進</p> <p><安田（あんた）の白い夢></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造販売拠点「安田（あんた）と夢ファクトリー『きらら』」の整備（H23） ・マンゴーを活用した大福「安田（あんた）の白い夢」製造・販売開始（H24～） ・高知龍馬空港でのキャンペーン展開（H24） ・JAL 麗らか四国キャンペーンとのタイアップ（H25） ・県外百貨店での高知フェアへの出展（H25） ・まるごと高知での安田町フェア開催（H26） ・ニッポン全国物産展への出展（H25、H27） ・まるごとにつぼん（浅草）及び瀬長島ウミカジテラス（沖縄県）での商談（H28） ・スーパーマーケットトレードショー（千葉県幕張メッセ）での商談（H29） ・製造事業者撤退による販売休止（H30～） <p><6次産業化に向けた新たな地域資源の掘り起こし></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工に適した作物選定のためのJAへの声かけ（R元） ・安田町産ゆずを活用した加工品の試作（R元） ・町所有のマンゴーハウス1棟増築（R元） 	<p><主な成果></p> <p>◆認知度の向上</p> <p><安田（あんた）の白い夢></p> <p>ニッポン全国物産展ご当地おやつランキング入賞 H25: 5位入賞 H27: 準グランプリ受賞</p> <p>◆商談を通じた販路の開拓</p> <p>H28以降新規開拓数：7件</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に適した作物の選定、原材料確保など事業化に向けた仕組みづくり及び商品開発の実現 ・6次産業化の担い手となる人材の確保 ・「安田の白い夢」の早期の販売再開及び販路開拓



AP名 (実施地域)	No.18 地場産品直販所「かっぱ市」等による地域活性化 (芸西村)
実施主体	◎(有)かっぱ市、大和リゾート(株)、芸西村、生産者グループ
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	地場産品直販所「かっぱ市」やロイヤルホテル土佐において、安定供給の仕組みを作るとともに、新商品開発や販路開拓等の外商活動に取り組むことにより、地場産品の消費拡大を進め、地域経済の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
かっぱ市売上高	1.4億円 (H30)	1.4億円		1.5億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み</p> <p><かっぱ市></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、リニューアルオープン (H23) 出荷者の搬入の利便性向上のため、施設搬入口を新設 (H30) 6次産業化サポートセンターによる戦略会議をスタート (R2~) 来店者の回遊を図るため、レイアウトを変更 (R2) 琴が浜でバーベキュー事業を開始 (R3) <p><ロイヤルホテル土佐></p> <ul style="list-style-type: none"> 売店のリニューアルによる地域特産品の拡充 (R3) 地域イベント「竹灯りの宵」と連携した会場づくりと新メニューの提供 (R3) <p>◆新商品の企画開発及び外商活動</p> <p><かっぱ市></p> <ul style="list-style-type: none"> 6次産業化セミナー参加を通じた、新商品の開発・ブラッシュアップ (H29、R元) POPの活用による商品群の販売促進 (R3) <p><ロイヤルホテル土佐></p> <ul style="list-style-type: none"> 白玉糖を活用した食パンやフィナンシェ等の開発・販売 (リゾゲット含む) (R3) 土佐くろしお鉄道とコラボした旅行商品の企画 (R3) 	<p><主な成果></p> <p>◆新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイヤルホテル土佐で白玉糖を活用した商品の開発 (R3.5:食パン、シフォンケーキ、フィナンシェ等) <p>◆魅力ある店舗づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイヤルホテル土佐の売店のリニューアル (R3.5) 地域イベント「竹灯りの宵」と連携による集客アップ (R3.12) <p>◆かっぱ市の売上</p> <p>R1:1.4億円 (137,778,550円) → R2:1.4億円 (139,896,795円) (R2はコロナ下であったが、R元年度と比較して、売上が、101.5%アップ。)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> かっぱ市の認知度の向上と新事業(バーベキュー事業等)のブラッシュアップ 地元と連携した地域産品の販売促進とイベントの企画

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み	店舗の魅力向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市： 新規商品をはじめとする商品のフェアの開催、顧客から要望の多い商品の取り扱いを検討 ●大和リゾート(株)： 白玉糖を活用した商品の開発及び販売、顧客から要望の多い商品の取り扱いを検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度やセミナー等の情報提供 				
	集客に向けたプロモーション				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市： 地域資源を活用したイベントの企画・実施、新規事業の企画とブラッシュアップ 回遊性のある店舗づくりや地域の情報を発信するコーナーの拡充 ●ロイヤルホテル土佐： 地域資源を活用したイベントの企画・実施、地域の情報を発信するコーナーの拡充 県外からの誘客に向けたニーズの把握と旅行商品の企画 HACCPに対応した製糖所と体験コーナーの設置の検討 ●県（地域本部等）： 食品関係支援制度やセミナー等の情報提供 				
◆新商品の企画開発及び外商活動	新商品の企画・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市： 地域資源の掘り起こしと活用検討、市場調査 ●大和リゾート(株)： ロイヤルホテル土佐における地域の特産品を活用したレシピ開発、加工品づくり ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー活用提案、商品開発に係るセミナーの紹介 				
	外商活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)かつば市：SNS等を活用した情報発信 ●大和リゾート(株)：ECサイトを活用した地域製品の販路拡大、商談による販路開拓、SNS等を活用した情報発信 ●芸西村：ふるさと納税での取扱い ●県（地域本部等）：商談会等の情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し支援 				

AP名 (実施地域)	No.19 安芸地域の観光振興の推進 (安芸地域全域)
実施主体	◎(一社)高知県東部観光協議会、安芸広域市町村圏事務組合、市町村、観光協会等、地域団体、民間事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	広域観光組織の基盤を整備し、情報発信、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入等を行うとともに、歴史や食、自然の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進することで、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 観光入込客数 (1~12月)	2,181,964人 (R元)	1,763,792人		2,225,601人
(2) 圏内宿泊者数 (1~12月)	154,542人 (R元)	93,572人		157,632人
(3) 圏内観光消費額 (1~12月)	3,526,972千円 (R元)	2,611,794千円		3,667,199千円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ひがしこうち魅力創出の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光実施事業者への助成 (H28~) ・日本遺産の活用、土佐の観光創生塾との連携等による着地型商品造成・磨き上げ支援 (H29~) ・四国運輸局事業の活用によるインバウンド向けコンテンツの造成・磨き上げ (R2) ・観光地域づくり塾を活用したコンテンツ造成 (R3~) ・ひがしこうち「食」の開発事業の実施 (R3~) <p>◆効果的な情報発信とセールスの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNS等での圏域の情報発信 (H28~) ・テレビや雑誌、WEB等メディアを活用した広報 (H28~) ・県内外のイベント等出展によるPR活動 (H28~) ・旅行会社へのセールス活動の展開 (H28~) ・広域観光ガイドブック「ひがしこうち」作成 (H30~) ・高知東部食プロジェクトによる周遊企画実施 (R元~) ・英語・繁体字版ホームページ作成 (R2) ・教育旅行用セールスツール(動画・素材集)の作成 (R3) ・サイクリングイベント「安芸・室戸パシフィックライド」の開催 (H27~) ※R2、R3はコロナ禍の影響で中止 <p>◆下支える基盤整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)高知県東部観光協議会設立 (H27) ・民泊候補世帯への訪問活動、受入研修実施 (H28~) 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織機能強化研修実施(先進地視察等：H30~) ・日本版DMO登録 (R元) ・WEBシステムによるアンケート調査・分析 (R元~) ・ひがしこうちDMO形成に向けた観光戦略ワーキンググループ会議の開催 (R2) ・高知県観光地域づくり推進員の配置 (R2~) ・観光庁補助事業による二次交通情報データ整備 (R3) ・観光庁実証事業による宿泊者データ収集分析システム及びCRMシステム構築 (R3) ・広域観光振興計画(第2期)策定 (R3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ホームページアクセス数 H29:71,753→R2:401,083 ◆パシフィックライド出走者 H28:314名→R元:469名 ◆民泊登録世帯数 H28:119軒→R元:257軒 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸地域ならではの周遊・滞在型の商品開発と磨き上げ ・情報発信力のさらなる強化 ・観光客の多様なニーズに対する受入環境・体制整備 ・東部観光協議会の組織体制強化と関係団体との連携強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ひがしこうち魅力創出の推進	着地型商品の造成・磨き上げ・販売 教育旅行の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、観光協会等、地域団体、民間事業者等：土佐の観光創生塾の受講等を通じた着地型商品づくり(特に周遊・滞在型の商品)、教育旅行向け体験プログラムの造成・磨き上げ 		体験型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等：助成金、県及び国事業等の活用による体験プログラムの造成・磨き上げ支援及びフォローアップ 		
	サイクリングによる東部観光の実践 <ul style="list-style-type: none"> ●市町村、地域団体、民間事業者：体験プログラムの検討・磨き上げ・受入 ●(一社)高知県東部観光協議会：体験プログラム実施者の支援 		滞在型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：ターゲット・ニーズ・テーマに沿ったモデルルートの造成、宿泊施設・二次交通・観光施設等を組み合わせた周遊促進商品の造成 		
			地元食材を活かした食観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、地域団体：協議会の独自事業及び県事業等の活用によるご当地グルメ開発・磨き上げ支援 		
◆効果的な情報発信とセールスの強化	戦略的な広報・PR活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：旅行会社、マスコミ等への広報活動の展開、ホームページやパンフレット、SNS等による観光情報の発信強化 		WEB・SNS等を活用した情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：協議会公式ホームページ及びSNSに掲載する情報(量・質)の磨き上げ、SNS広告等を活用した情報発信 		
	着地型商品の造成・磨き上げ・販売 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会 商談会への出展・旅行会社へのセールス 		旅行会社へのセールス強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：教育旅行を中心とした商談会等出展・旅行会社への訪問セールス・提案の実施、セールス戦略の共有等 		
	インバウンド対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：国外におけるセールス、商談会への出展、ホームページ及びガイドブック等の多言語化 		ファミツアーによる情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：旅行会社、メディア等専門家に向けたファミツアーの実施、地域内関係者向けモニターツアーの実施等 		
			県内・着地側での情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：ガイドブック等の活用、県や広域で連携するイベントでの出展、物販PRイベントの実施等 		
◆下支えする基盤整備の推進	東部観光協議会の組織体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング及びマネジメント機能の強化、観光地域づくりのノウハウの習得、県版地域おこし協力隊制度を活用した人材確保 		マーケティング機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：観光客の行動やニーズなどをリアルタイムにとらえる仕組みの構築、各調査結果の分析等を魅力づくり・情報発信に活用及び戦略・戦術への反映、地域へのフィードバック等 		
	東部観光関係団体間の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等：各組織間の連携強化及び役割分担の明確化 		リピーター化と域内消費の促進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：CRMアプリ(観光客等に地域の観光情報や買い物・体験ごとにポイントを提供するアプリ)導入・運用推進、アプリ会員の消費データ等顧客情報の蓄積及び同データを活用した取組実施 		
	広域観光振興計画の実施・更新 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング調査結果を踏まえた現状分析、対応策の検討及び計画の見直し・更新 		受入環境・体制の整備強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：国・県事業等との連携による観光の担い手確保・育成等ソフト整備支援、地域内の情報を集約する体制整備 ●市町村：国・県事業を活用した観光施設等の改修及びインフラ整備等 		
			広域観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)高知県東部観光協議会：広域観光振興計画のPDCAの状況を共有するワーキンググループの開催、インバウンドやサステナブル・ツーリズムの推進等に対して官民・各産業及び各地域等との連携強化 		

AP 名 (実施地域)	No.20 日本遺産を活用した中芸地域の活性化 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)
実施主体	◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域の交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
中芸地域主要施設訪問者数	537,560 人 (H30)	437,812 人		550,000 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立 (H28) ・日本遺産認定 (H29) ・日本遺産魅力発信推進事業の実施 (H29～) ・日本遺産認定記念シンポジウムの開催 (H29) ・日本遺産のストーリーにちなんだ体験プログラムイベント「ゆず FeS」の開催 (H29～7回) ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局発足 (H30) ・BS-TBS2018「日本遺産」シーズン3での全国放送 (H30) ・日本遺産シンポジウム「中芸みんなの日本遺産 2019」開催 (H30) ・ゆずりんてつイルミ 銀河鉄道の夜開催 (R元) ・ゆずと林鉄 EXPO 開催 (R2～) ・日本遺産協議会への産振アドバイザーの導入 (R2) ・「第27回全国ハーブサミット in 中芸」開催 (R3) ・日本遺産関連ツアーの造成 (R3) ・再認定に向けた協議会体制の見直し (R3) <p>◆森林鉄道施設の保存及び活用策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド育成 (H21～23) ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の設置 (H25) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画の策 (H27) ・重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用委員会の開催 (H30～:5回) ・案内看板の設置 (R元:5カ所) ・ガイド養成講座の実施 (R3:全5回) <p><主な成果></p> <p>◆ゆず FeS 参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 17プログラム 161人 第2回 22プログラム 268人 第3回 22プログラム 156人 第4回 11プログラム 96人 第5回 18プログラム 104人 第6回 9プログラム 63人 第7回 18プログラム 337人 <p>◆ゆず林鉄 EXPO 参加者数</p> <p>R2:625人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自走に向けた方向性の決定及び仕組みの構築 ・拠点施設となるビジターセンターの整備 ・訴求力あるイベントの企画及び情報発信・普及啓発のさらなる強化 ・ガイドの育成による受入体制の充実 ・再認定に向けた協議会体制の見直しと強化

第4期計画における行程表						
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降	
◆日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大	戦略の策定及び再認定に向けた体制の構築・強化			DMO 設立に向けた取組の実施		
	<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等による自走に向けた方向性（戦略）の検討・策定、協議会体制の見直し（日本遺産推進室の設置）、DMO 立ち上げに向けた検討 ●県（地域本部等）： 戦略策定等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他の日本遺産の取り組みに関する情報提供 			<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： DMO 設立準備、関係機関との調整 ●県（地域本部等）： 戦略策定等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他の日本遺産の取り組みに関する情報提供 		
	既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施					
	<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施、SNS 等による情報発信、セミナー等の受講による受入体制の充実、観光創生塾等の受講及び(一社)高知県東部観光協議会と連携した旅行ツアー商品等の開発、旅行会社への売り込み、関係町村との連携によるゆず林鉄 EXPO など各種イベントの実施 ●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 町村独自のイベントの開催、森林鉄道施設の活用など、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携した事業の実施 ●県（地域本部等）： 事業実施に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、(一社)高知県東部観光協議会などの関係機関への橋渡し 					
	拠点施設整備の検討、整備計画の策定、整備					
	<ul style="list-style-type: none"> ●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等を通じた拠点施設の整備の検討・決定、整備計画の策定、部会 WG での施設整備内容の検討実施、施設整備、観光客の受け入れ、SNS 等を活用した情報発信、定期的なイベントや企画展の開催 ●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、情報発信の方法やイベント開催などに関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、関係機関への橋渡し 					
◆森林鉄道施設の保存策の検討	保存策の検討及び遺構の修復					
	<ul style="list-style-type: none"> ●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用推進委員会における保存策の検討、案内看板の設置による PR、文化庁補助金等を活用した遺構の修復 ●県（地域本部等）： 委員会への参画によるアドバイス、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、関係機関への橋渡し 					
【用語】・日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。						

AP名 (実施地域)	No.21 室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興 (室戸市)
実施主体	◎室戸市、◎(一社)室戸市観光協会、室戸ジオパーク推進協議会、(株)日本ドルフィンセンター、(一社)うみ路、NPO 法人日本ウミガメ協議会、土佐備長炭窯元炭玄、民間事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	世界ジオパークに認定された室戸ジオパークやむろと廃校水族館、海の駅とろむなどの観光資源の魅力度を高めるとともに、各施設の連携強化により周遊・滞在型観光への転換を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)室戸市主要施設訪問者数 (1~12月)	805千人 (H30)	506千人		850千人
(2)室戸世界ジオパークセンター 来館者数	87,318人 (H30)	41,692人		90,000人
(3)室戸ドルフィンセンター来場者数	27,693人 (H30)	15,652人		30,000人
(4)むろと廃校水族館来館者数*	168,333人 (H30)	68,776人		121,200人
(5)MUROTObase55 (旧ライダーズイン室戸) 利用者数	—	1,785人		6,000人

※出発点に入館者減少率（他の水族館の入館者数推移から算出）を乗じて算定

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆周遊型・滞在型観光の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市クラスター協議会による周遊コース等作成(H28~) ・ぐるっとむろとスタンプラリー実施 (H29~) ・県観光アドバイザーによる観光勉強会開催 (R2.10月、R3.8月) <p>◆誘客促進</p> <p><室戸世界ジオパーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ジオパークネットワーク (JGN) 認定 (H20.12月) ・世界ジオパークネットワーク (GGN) 認定 (H23.9月) ・室戸世界ジオパークセンターオープン (H27.4月) ・接遇等各種ガイド研修の実施 (H28~) ・JGN 再認定 (H30.9月) ・GGN 再認定 (R2.1月) <p><海の駅とろむ> (室戸ドルフィンセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の充実 (看板、浮桟橋、倉庫等) (H21~23) ・陸上施設の整備 (H24) 及び補助プールの整備 (H25) 	<p><むろと廃校水族館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むろと廃校水族館オープン (H30.4月) ・屋外プールへの日除設置 (R2.6月) →観光拠点等整備事業費補助金活用 <p><MUROTObase55 (旧ライダーズイン室戸) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・MUROTObase55 オープン (R2.2月) <p><主な成果></p> <p>◆むろと廃校水族館来館者数 H30 : 168,333人 → R元 : 150,210人</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設間の連携による周遊型、滞在型観光への転換 ・体験メニューの開発・磨き上げ ・教育旅行の受入拡大 ・各施設の来館者数等の増 ・ジオパークガイドの人材確保及びツアーの磨き上げ
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆周遊型・滞在型観光の強化	<p>旅行プランの造成、情報発信、営業の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、(一社)室戸市観光協会： <p>周遊型・滞在型観光に向けた関係者間での協議の場の設置、周遊・滞在につながる旅行プランの造成のためのモニター実施などによる市場調査、旅行プランの造成、情報発信、旅行者への売り込み、MUROTObase55を起点とした周遊・滞在を担当する地域おこし協力隊の雇用</p> ●県（地域本部等）：関係者間協議への参画及び提案、周遊につながる旅行プラン造成のための産業振興アドバイザー等の活用提案、商談会等への出展について(一社)高知県東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、各種情報提供 				
◆誘客促進 室戸世界ジオパーク	<p>企画展・イベントの開催、既存ツアーの磨き上げ、新ツアーの造成、教育旅行受入、ガイド養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室戸市、室戸ジオパーク推進協議会：企画展・イベントの開催、観光創生塾等のセミナー受講、ツアーガイド養成講座等の開催、各種ツアーなど地域情報の発信 ●県（地域本部等）：情報発信、観光創生塾等のセミナー受講の提案、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案 				
海の駅とろむ	<p>体験プログラムの造成、既存プログラムの磨き上げ、PRの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)日本ドルフィンセンター、指定管理者（未定）： <p>新規プログラムの開発、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入、誘客促進に向けた施設間の連携</p> ●県（地域本部等）： <p>観光創生塾の受講の提案、県外誘客に向けた東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、施設間の連携に向けた提案、各種情報提供、SNSでの発信、マスコミを通じたPR、商談会への参加</p> 				
むろと廃校水族館	<p>体験プログラムの磨き上げ、開発、PR強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●むろと廃校水族館：体験プログラムの磨き上げ・開発、各シーズンのイベントの開催、SNS等での情報発信、誘客促進に向けた施設間の連携 ●県（地域本部等）：情報発信支援、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案 				
MUROTObase55(旧ライダーズイン室戸)	<p>運営・広報・営業力の強化、周辺施設と連携した誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐備長炭窯元炭玄（指定管理者）、室戸市：HP、SNS等の各種媒体を活用した高知県内外へのPR、誘客促進に向けた施設間の連携 ●県（地域本部等）：情報発信支援、施設間の連携に向けた提案 				
<p>【用語】・日本ジオパークネットワーク（JGN）：日本国内のジオパークとジオパークをめざす地域をサポートする、ジオパークのネットワークの軸となる特定非営利活動法人（NPO法人）</p> <p>・世界ジオパークネットワーク（GGN）：地質的遺産や地域の文化、環境の向上をめざし、2004年ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の支援を受けて誕生したネットワーク</p>					

AP 名 (実施地域)	No.22 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進 (安芸市)
実施主体	◎安芸市、◎(一社)安芸市観光協会、安芸漁協、伊尾木あなごう保存会、内原野陶芸館、JA 高知県 (安芸地区)、安芸市観光ボランティアガイドの会、廓中ふるさと館、メリーガーデン、はたやま夢楽、安芸「釜あげちりめん丼」楽会、道の駅大山、安芸商工会議所、「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	既存の観光資源の磨き上げや自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により地域ブランド力及び観光客の満足度の向上を図り、交流人口の拡大及び観光関連産業の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)市内年間観光客数	278,442 人 (H30)	129,012 人		300,000 人
(2)市内年間宿泊者数	25,726 人 (H30)	20,481 人		26,500 人
(3)ちりめん丼販売食数	46,872 食 (H30)	26,522 食		50,000 食

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆岩崎弥太郎を生かした安芸市観光の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市観光ガイドブック「安芸たび」作成 (H29) ・岩崎家ゆかりの地である安芸市と県外 3 市区町との間で広域文化観光協議会を設立 (H30) ・安芸観光情報センターをリニューアルし、VR 映像シアターを整備 (R 元) ・三菱創業 150 周年を記念し、岩崎弥太郎の生涯を紹介したマンガを制作 (R2) ・安芸駅ぢばさん市場で「岩崎家ゆかりの地フェア」を開催 (R2、R3) ・岩崎弥太郎源流の地フォーラムの開催 (R3) <p>◆地域食材等を活用した誘客の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会実行委員会によるイベントへの出店等 PR 活動 (H22～) ・道の駅大山の改修と合わせ、新メニューユズ玉ナスのキーマカレーを販売開始 (H29) ・「安芸名物なす料理お食事マップ」作成 (H29) ・ナス料理等提供店と連携しスタンプラリー開催 (R2) 	<p>◆観光資源の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内原野陶芸館に小型電気窯を設置 (H30) ・伊尾木洞観光案内所等の整備 (H30) ・地域の頑張る人づくり事業を活用し安芸商工会議所が企業向け森林研修事業の研修会を実施 (R 元) ・伊尾木あなごう保存会による伊尾木洞観光案内所周辺での地場産品等販売の試行 (R3) ・産業振興アドバイザーの活用による安芸駅ぢばさん市場の課題洗い出しと対策案の検討 (R3) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊尾木洞への観光案内所やトイレの整備等により、利便性が向上した。 ・内原野陶芸館への小型電気窯設置により少数からの窯入れ及び完成までの時間短縮が可能となった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内での滞在時間の延長及び観光消費額の拡大、観光客の満足度向上 ・新しい生活様式に対応したイベント開催方法や観光推進の在り方についての検討
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆岩崎弥太郎を生かした安芸市観光の活性化	三菱創業 150 周年 記念事業の実施				
	観光情報センターを拠点とした市内周遊の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会： 三菱創業 150 周年を記念した各種イベント等の実施 観光情報センターリニューアルによる市内外からの誘客 PR ●県（地域本部等）： イベント企画の実施等への支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会： 観光情報センターの安定した利用者確保に向けた PR、滞在時間延長に向けた市内周遊プランの磨き上げ ●県（地域本部等）： アドバイザーの活用提案、協議への参画によるアドバイス、情報提供 		
	岩崎家ゆかりの地としてのブランド価値の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会、「はばたけ彌太郎」安芸市推進委員会： 岩崎家ゆかりの地広域文化観光協議会等の活動による地域の文化財や観光資源等の PR、岩崎弥太郎生家周辺ほか岩崎家ゆかりの地を巡るガイドメニュー、ツアー化に向けたコース設定等の検討 				
◆地域食材等を活用した誘客の推進	地域食材等を活用した誘客の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会、JA 高知県（安芸地区）、安芸「釜あげちりめん丼」楽会（ほか）： ナス、ユズ、シラス、土佐ジロー、マンゴーなどの地域食材を活用したメニューや商品の開発・磨き上げ、イベントによる誘客や飲食店等でのメニュー提供、道の駅や地場産品直販所等での商品の販売促進・PR 活動 ●県（地域本部等）： アドバイザーの活用提案、6 次産業化セミナーの受講案内 				
◆観光資源の魅力向上	体験プログラムの磨き上げと新たな造成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会、安芸市観光ボランティアガイドの会、伊尾木あなごう保存会（ほか）： 既存の体験プログラムの磨き上げ、新たな体験プログラムの造成、ボランティアガイドを新たに養成 ●県（地域本部等）： 土佐の観光創生塾等の受講の働きかけ、新たな体験メニューや商品づくりのためのアドバイザーの活用提案、他地域の参考事例等の情報提供 				
	集客に繋げるための各種取り組みの検討・実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安芸市、(一社)安芸市観光協会（ほか）： 観光客を呼び込むための仕組みづくりや定期的な魅力発信（イベントの企画・開催）、満足度向上に向けた施設整備等、サイクルツーリズムへの対応 ●県（地域本部等）： アドバイザーの活用提案、補助金等の活用の支援 				

AP名 (実施地域)	No.23 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 (室戸市、東洋町)
実施主体	◎(一社)東洋町観光振興協会、◎東洋町、地元マリンスポーツ等関係事業者、宿泊事業者、阿佐海岸鉄道(株)、東洋町商工会、NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト、(一社)高知県東部観光協議会、室戸市
APへの位置づけ	H25.4月
事業概要	サーフィンやダイビングを中心としたマリンスポーツや DMV (デュアル・モード・ビークル)、野根川といった地域資源を生かした体験型観光メニューの充実、周遊プランの造成など、観光客の受け入れ体制の強化に取り組むことにより、滞在時間の延長及び誘客促進を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
体験者数	465人 (H30)	2,969人		5,000人
東洋町主要施設訪問者数 (1~12月)	231,780人 (H30)	206,830人		250,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆(一社)東洋町観光振興協会の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興協会事務所兼観光案内所開所 (H31) ・地域おこし協力隊の導入 (H30:1名、R元:1名) ・(一社)東洋町観光振興協会の設立 (R元) <p>◆受け入れ体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14体験プログラムの開発 (H27~H28) ・農家漁家民泊の推進 (H28~) ・海上アスレチック整備 (H30) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用したサーファー向けアンケート調査の実施、野根川キャンプ場整備等 ・サーファー向け簡易シャワー、有料駐車場の整備 (H30、R元) ・体験プログラムの見直し (R2) ・サーフィン大会の誘致 (継続) ・ジャンボスライダー整備 (R3) ・サーフスケートパークの試行 (R3) <p>◆DMVを活用した観光振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿佐海岸鉄道(株)や高知県及び徳島県の観光・商工団体等からなる「あさチエン推進会議」発足 (R元) ・産振アドバイザーを活用し、DMVを活用した観光コン 	<ul style="list-style-type: none"> ・テント開発、プロモーションの実施計画を策定 (R元) ・運行ルート、ダイヤ、運賃決定 (R2) ・PiPPA 整備 ・運行開始 (R3) <p>◆野根川を活用した観光振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進交付金を活用した、野根川の自然をテーマとした地域活性化施策を実施 (H28~) ・南四国アイランド活性化協議会の設立 (R2) ・フランスバスク地方との交流開始 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆海上アスレチック体験者数 R元: 2,945人 → R2: 2,878人 ◆農林漁家民泊の受入世帯数・人数 H28: 10軒 34人 → H30: 37軒、150人 → R元: 39軒、152人 ◆主な4サーフィン大会での参加選手数 H28: 456人 → R元: 1,533人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの造成や売り込みの強化 ・観光客の誘客・周遊促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆(一社)東洋町観光振興協会の体制強化	事務局体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)東洋町観光振興協会： セミナー等でのノウハウの取得、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、人材育成 ●東洋町： 地域おこし協力隊の派遣等人的な支援、関係人口の活用支援 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆受け入れ体制の強化	体験プログラムの磨き上げ・造成、周遊の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ●地元マリンスポーツ等関係事業者、NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト： 体験プログラムの磨き上げ・造成 ●(一社)東洋町観光振興協会、(一社)高知県東部観光協議会： ビーチホッピングの運営強化、体験プログラムの磨き上げや造成の支援・広報、周遊プランの検討・造成・販売支援、観光情報の提供 ●東洋町： 教育旅行の推進、マスコミ・SNSを通じたPR ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡しの橋渡し 				
◆DMVを活用した観光振興	周辺地域等との連携、観光コンテンツの充実、プロモーション <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)東洋町観光振興協会、東洋町、東洋町商工会、NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト、(一社)高知県東部観光協議会、阿佐海岸鉄道(株)、室戸市： あさチエン推進会議への参画による一体的な取り組みの推進、観光マップの整備や2次交通の整備検討など観光客の満足度向上に向けた取り組みの推進、SNSやマスコミを通じた情報発信、旅行会社への売り込み ●東洋町： 甲浦駅の魅力向上、SNS等を活用したPR ●県（地域本部等）： イベント等の企画・実施に積極的に関わり、状況に応じた支援や各種支援制度に関する情報提供 				
◆野根川を活用した観光振興	プロモーションの推進、受け入れ環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ●NPO 法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト： 体験プログラムの磨き上げ・造成、宿泊環境の整備 ●東洋町： ブランディング動画の公開、フランスバスク地方との交流推進、地域製品の開発促進、野根川オートキャンプ場の整備・広報、徳島県海陽町（野根川上流部）との連携 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.24 奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大 (奈半利町)
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、藤村製糸(株)
AP への 位置づけ	H26. 4月
事業概要	藤村製糸記念館、海浜センター、米ヶ岡生活体験学校などの観光施設の誘客強化により、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 2	R 3	R 5
(1) 記念館来館者数 (1~12月)	1,000人 (H30)	626人		1,500人
(2) 海浜センター利用客数	562人 (H30)	361人		2,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆藤村製糸記念館の活用拡大

- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した藤村製糸記念館の整備 (H26)
- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した観光案内板、観光ガイドブック、町歩きマップ、展示用パネル等の整備 (H28)

◆海浜センターの機能強化、体験型観光の推進

- ・集落活動センター推進事業費補助金を活用した体験に係る備品等 (SUP ボード、水中スクーター他) の整備 (H30)
- ・高知県地域観光振興交付金を活用した奈半利町観光基本構想の策定(R 元)
- ・高知県地域観光振興交付金を活用した奈半利町観光基本計画・基本設計の策定(R 2)
- ・高知県地域観光振興交付金を活用した海浜センターの改修及びキャンプサイトの整備等 (R3)

◆米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進

- ・なはり里山フェス in 米ヶ岡の開催 (H30~)

<主な成果>

- ・奈半利町の観光窓口である奈半利駅及びなはりの郷に観光案内看板や文化財のパネルを設置するとともに、奈半利町の公式 PR 冊子として観光ガイドブックを用意し、県内外の各所に配布したことにより、奈半利町の魅力ある観光資源の周知を図ることができた。
- ・SUP ボードや水中スクーターなど新たな備品を導入したことにより、SUP などの新たな体験プログラムの造成につながった。
- ・なはり里山フェス in 米ヶ岡では、町内外からの参加者を集めた (H30 : 143 人、H31 : 128 人、R2:20 人、R3 : 55 人)

<課題>

- ・藤村製糸記念館の活用拡大
- ・海浜センターの誘客活動の強化、体験型観光の推進
- ・米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進
- ・自然 & 体験キャンペーンと連動した体験プログラムの造成・磨き上げ

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆藤村製絲記念館の活用拡大	町並みガイド等での活用拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●藤村製絲(株)、奈半利町、(一社)なはりの郷： 町内のガイド組織との連携強化、観光情報発信における連携、記念館の活用拡大に向けた方法の検討 ●県（地域本部等）： 情報発信等に向けた産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆海浜センターの機能強化、体験型観光の推進	施設整備及び周辺整備の検討・実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●奈半利町： 奈半利町観光基本構想及び基本計画の策定（R1,2）、基本計画に基づいた施設改修及びキャンプサイトの整備・キャンプ関連備品等の購入（R3） ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、補助申請等手続に関する支援 				
	体験プログラムの造成・磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)なはりの郷、奈半利町： 観光創生塾の受講などによる体験プログラムの造成・磨き上げ、(一社)東部観光協議会と連携した営業の強化 ●県（地域本部等）： 誘客に向けた産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種観光関連のセミナー及び支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	体験・交流イベントの強化、情報発信				
◆米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●奈半利町： 施設整備の検討、体験・交流イベントの内容の検討及び見直し、SNS等を活用した積極的な情報発信 ●県（地域本部等）： 誘客に向けた産振アドバイザー等や観光創生塾の活用提案、各種観光関連のセミナー及び支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.25 安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化 (安田町)
実施主体	◎安田町
AP への 位置づけ	H31.4月
事業概要	安田町の自然・体験型観光の拠点施設としてキャンプ場を再整備し、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信や施設の管理運営手法の見直しなどを行い、利用客数の大幅な増加を目指すほか、キャンプ場利用者への周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
キャンプ場利用者数	2,527人 (H30)	53人		6,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆キャンプ場の再整備による磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザー制度を活用した現状と課題の洗い出し (H30: 1回) 観光拠点等整備事業費補助金を活用した基本計画の策定 (H30) 観光拠点等整備事業費補助金を活用した実施設計の作成 (R元) 地域観光振興交付金等を活用した改修工事の実施 (R2) 安田川アユおどる清流キャンプ場設置及び管理に関する条例の制定 (R2) 安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン (R3) <p>◆利用客数アップに向けた仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐の観光創生塾の受講を通じた JA や安田川漁協との連携による体験メニューの検討 (R元) 日本遺産関連イベント「ゆず FeS」の体験プログラムとしてキャンプ場で体験メニューを実施 清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験 (R元) 親子ピザ焼き体験 (R元) 田中ケンのオージービーフ BBQ 講座 (R3) 専用 HP の立ち上げ・パンフレット刷新 (R3) 	<ul style="list-style-type: none"> 味工房じねんとの連携に向けた協議 (R3) コールマンパートナーフィールドイベント第1弾実施 (キャンプなんでも相談・テントの設置、たたみ方講習) (R3) Xmas イベントの開催 (R3) <p><主な成果></p> <p>◆キャンプ場の再整備による磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「安田川アユおどる清流キャンプ場等再整備基本計画」の策定 (H30) 「安田川アユおどる清流キャンプ場整備工事設計」の作成 (R元) 安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン (R3) コールマンパートナーフィールドイベント第1弾実施(R3) <p>◆「ゆず FeS」を通じた体験メニューの利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験：18名 親子ピザ焼き体験：7名 田中ケンのオージービーフ BBQ 講座：10組 22名 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客サービスの向上 イベント開催や体験メニューの造成等による集客力アップ 周辺観光施設等との連携による相互誘客の仕組みづくり 周辺施設との連携による地域食材の提供

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆キャンプ場の再整備による磨き上げ	キャンプ場再整備 <ul style="list-style-type: none"> ●安田町：国及び県の支援制度を活用した施設の再整備 ●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し 	キャンプ場リニューアルオープン			
	顧客サービスの向上 <ul style="list-style-type: none"> ●安田町：アウトドア専門家や事業者等と連携した顧客ニーズに沿った管理・運営手法の導入、新規サービスの提供、スタッフの人材育成 ●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆利用客数アップに向けた仕組みづくり	実施内容の検討 <ul style="list-style-type: none"> ●安田町：イベント内容の検討、体験メニュー等の内容検討、情報発信方法等の検討 ●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し 	集客に向けた取り組みの実践及び満足度向上に向けた改善策の実施			
	連携手法の検討・準備 <ul style="list-style-type: none"> ●安田町：周辺の施設との連携内容の検討及び調整、地域食材の提供の検討・準備 ●県（地域本部等）：各種支援制度及び他地域事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		周辺施設との連携による相乗効果の発揮 <ul style="list-style-type: none"> ●安田町：周辺施設との連携開始による新たなサービスの提供、誘客に向けた共同PRの実施、地域食材の提供開始によるサービス向上、連携の継続・発展に向けた仕組みづくり ●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等含む）及び他地域の事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		
	<ul style="list-style-type: none"> ●安田町：季節毎に特色あるイベントの企画・実施、キャンプ場を拠点とした体験メニューの充実及び定番化、SNSを活用した情報発信及びHP作成、メルマガ配信によるファンの獲得、イベント及び体験メニューの継続実施に向けた仕組みづくり、参加者からの評価を基にした改善策の検討・実施 ●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.26 北川村観光 3 施設の誘客強化による交流人口の拡大 (北川村)
実施主体	◎(株)きたがわジャルダン、◎北川村、北川村観光協会、北川村中部地区集落活動協議会、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	北川村「モネの庭」マルモットン、北川村温泉及び中岡慎太郎関連施設の北川村観光 3 施設に関する情報発信の強化、施設間の連携、北川村温泉周辺の住民組織と連携した体験プログラムの造成などに取り組むことにより、集客力を高め、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 2	R 3	R 5
各施設入園（館）者合計数 (4～3 月)	94,350 人 (H30)	70,594 人		108,000 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆村外に向けた観光情報等の発信強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村観光協会のホームページの作成等 (H28) <p>◆3 施設及び関係機関との連携強化と各施設の磨き上げ</p> <p>【連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1DAY パスポートきたがわさんぼの販売 (H27) ・北川村観光施設周遊スタンプラリーきたがわ ALUKU の実施 (H28～R 元) ・きたがわ村 慎太郎 パスポート周遊ラリーの実施 (R2～) <p>【磨き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北川村「モネの庭」マルモットン <ul style="list-style-type: none"> ・旧ワイナリーを多目的ホールへ改修 (H22) ・小庭園の整備 (H22,H23) ・経営コンサルタントのアドバイスを受けたコスト削減への取り組み (H23～) ・接客アドバイザーによる接客マナー研修の実施 (H25～29) ・庭園「花の庭」の整備 (H26) ・接客マニュアルの作成 (H27) ・カフェモネの家（レストラン棟）改修 (H28) ・ポルティゲラの庭オープン (R2) ・テラス（レストラン棟横）改修 (R3) 	<ul style="list-style-type: none"> ○中岡慎太郎館 <ul style="list-style-type: none"> ・展示ケース内の環境を一定に保つエアタイトケースの整備や館内外の設備の改修等 (H28) ・英語版展示解説整備や英語版パンフレットの作成、ホームページの改修等 (H29) ・感染症対策のためのトイレ改修 (R2) ◆集客に向けた取り組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・北川村小島周辺整備クラスター協議会発足 (R 元) ・観光創生塾受講による観光商品の造成 (R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各施設入園（館）者合計数 H26 : 80,983 人 → R 元 : 98,585 人 →R2 : 70,594 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信強化 ・3 施設間を結ぶ交通アクセス ・従業員や担い手の確保 ・北川村観光協会、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会、北川村中部地区集落活動協議会等関係機関との連携強化 ・集客増に向けた体験プログラムの構築

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆村外に向けた観光情報等の発信強化	SNS やマスコミ等を活用した情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)きたがわジャルダン、北川村、北川村観光協会： SNS やマスコミを通じた情報発信（モネの庭のイベントや企画展、北川村温泉の日帰り入浴、中岡慎太郎館の企画展など）、研修会等を通じた情報発信のスキルアップ ●県（地域本部等）： 各種支援制度や研修会等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆3施設及び関係機関との連携強化と各施設の磨き上げ	3施設間や周辺地域への周遊の仕組みづくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)きたがわジャルダン、北川村、NPO 法人中岡慎太郎先生顕彰会： イベントや企画展の連携（モネの庭、中岡慎太郎館）、レンタサイクルの貸出し（北川村温泉）、SNS やマスコミを通じたPR 活動 ●北川村観光協会： 周遊マップやパンフレットの作成、慎太郎パスポート周遊ラリーの実施 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーや観光アドバイザーの活用提案、各種支援制度や研修会等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆集客に向けた取り組みの強化	体験プログラムの造成及び磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)きたがわジャルダン、北川村中部地区集落活動協議会： 体験プログラムの造成及び磨き上げ（モネの庭における新たな体験プログラムの検討、北川村温泉周辺における田舎生活体験など） ●北川村観光協会： 体験プログラム実施に向けた支援、観光創生塾等への参加 ●北川村： 北川村小島周辺整備クラスター協議会の開催（関係機関間における情報交換等） ●県（地域本部等）： 体験プログラムの実施支援、産業振興アドバイザーや観光アドバイザーの活用提案、各種支援制度や研修会等に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.27 椎名集落活動センターたのしいなを拠点とした室戸市椎名地区の活性化 (室戸市)
実施主体	◎室戸市、◎椎名集落活動センターたのしいな運営委員会、地域住民団体（椎名常会）、椎名大敷組合、民間事業者
APへの位置づけ	H27.4月
事業概要	地域住民が主体となり、集落活動センターの運営を行い、地域・観光資源を生かして、交流人口の拡大を図るなど、地域振興の推進を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 集落活動センター利用者数	6,715人 (H30)	1,656人		7,500人
(2) 交流イベント開催数	96回 (H30)	161回		200回

これまでの主な動き

<これまでの取り組み内容>

◆集落活動センターの取り組みの充実

- ・集落活動センター開所式の開催 (H30.4月)
- ・各種行事・活動の開催 (H30～)
- ・ちいさな海のカフェの開催 (H30.4～月2回程度)
- ・百歳体操「やまもも」の開催 (H30.5～月2回程度)
- ・お魚祭り開催 (H30～3回実施)
- ・ピザづくり講習会開催 (H30～月1回程度)
- ・椎名文化祭の開催 (R元～)
- ・集落活動センター推進アドバイザー (H30～R元2回)
- ・むろと廃校水族館 SNSとの連携による誘客
- ・室戸市広報等活用
- ・集落活動センター通信の発行
- ・青空市(特産品等販売)の開催 (H30.9月～土日祝日開催)
- ・コロナ感染症対策アドバイザー活用 (R2.8月)

◆経済的自立に向けた取り組み

- ・ちいさな海のカフェ開催
- ・お魚祭りの開催
- ・ビン玉編みワークショップなどの体験プログラムの開催 (R元.7月～)

- ・民間事業者との連携による「飲食提供」(R2.10)
- ・室戸市ふるさと納税返礼品への「ビン玉商品」の出展 (R3.11～)
- ・新たな体験プログラム(干物づくり体験)造成検討 (R3.11～)
- ・地域おこし協力隊雇用開始 (R3.12～)

<主な成果>

◆イベントの開催

H30: 96回

◆イベント来場者数

H30: こどもマルシェ 600名
お魚祭り(3回) 計1,200名

◆カフェ売上

H30: 75万5千円→R元:53万8千円
→R2:12万2千円

◆青空市出店事業者数

H30～R元.12月: 延べ280店舗

<課題>

- ・施設の利活用及び運営体制の検討
- ・むろと廃校水族館や椎名大敷組合と連携した誘客
- ・活動拡充・維持のための住民の組織づくり
- ・経済活動の担い手の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆集落活動センターの取り組みの充実	既存活動（カフェ等）の継続・拡充、担い手の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●椎名集落活動センターたのしいな運営委員会： 活動者の確保、カフェ機能の強化 ●室戸市： 移住情報の発信、移住環境の整備強化による担い手確保、チャレンジャーなど民間事業者のキッチン活用の検討、キッチン活用方法の整理、青空市の開催回数増加の検討（現在の土日祝日→土日祝日に加えて夏休みや冬休みなどの長期休暇期間を追加する等） ●県（地域本部等）： 各種支援策の情報提供、情報交換会案内、関係機関との連携支援、地域情報の発信支援 				
◆経済的自立に向けた取り組み	体験プログラムの造成・メニュー化・むろと廃校水族館との連携				
	<ul style="list-style-type: none"> ●椎名集落活動センターたのしいな運営委員会、地域住民団体： 活動者の確保、体験プログラムの検討とメニュー化 ●椎名大敷組合、民間事業者： 集落活動センターと連携した体験プログラムの運営、メニュー化 ●県（地域本部等）： 中山間地域振興アドバイザー活用提案、集落支援員や住民グループへの観光創生塾受講の提案、各種支援策の情報提供、県広報媒体を用いた体験プログラムの情報発信 				

AP 名 (実施地域)	No.28 集落活動センターなかやまを拠点とした安田町中山地区の活性化 (安田町)
実施主体	◎中山を元気にする会、安田町、中山合同女性部、味工房じねん、自然薯生産組合、安田川漁協
AP への 位置づけ	H24.4月
事業概要	地区住民が主体となり、安田ふるさと応援隊と協力して集落活動センターの運営を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取り組みを推進する。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 交流人口	5,163 人 (H30)	53 人		8,000 人
(2) 集落活動センター利用者数	3,308 人 (H30)	1,490 人		5,000 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆旧中山小中学校を活用した多機能総合拠点施設の整備及び運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧中山小中学校活用検討委員会設置 (H28) ・旧中山小中学校を活用した複合施設整備活用策について、高知大学サテライト教室、映像村、看護小規模多機能居宅介護施設、簡易宿泊に決定 (R元) ・旧安田町立中山小中学校活用計画の策定 (R元) ・旧中山小中学校改修工事開始 (R3) <p>◆経済的自立に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちんくのビジネス塾への参加による映像村や自然薯を活用した事業構想等の作成 (R元) ・うちんくのビジネス塾を活用した自然薯の商品開発(自然薯とろろふりかけ) (R2) ・うちんくのビジネス塾を活用した映像村事業の事業計画書作成 (R3) <p>◆集落活動センターの取り組みの継続及び発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の買い物支援の実施 (H25～月1～2回) ・耕作放棄地を活用した山芋の栽培 (H26～) ・自然薯を使用した加工品(クッキー、シフォンケーキ)の試作販売 (H30～) ・カフェよってん屋の開催 (H26～月2回程度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・山芋まつりの開催 (H26～毎年12月初旬) ・高知大学との連携による山芋の植付け、収穫 (H25～ R2,3はコロナで中止) ・自然薯の栽培勉強会や先進地視察 (R元:3回) ・ドライフラワーリース作り教室の開催 (R3～) ・中山間地域振興アドバイザー(実践活動アドバイザー)導入による新型コロナウイルス感染症対策指導の実施 (R2) ・集落活動センター新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金活用によるアクリル板の導入 (R2) ・集落活動センター推進事業費補助金活用によるパソコン(リモート環境整備)の導入 (R3) <p><主な成果></p> <p>◆山芋まつり来客数 H27:1,500人 → R元:2,500人</p> <p>◆自然薯直販会売上額 R2:374,125円(2日間合計)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像村を中心とした経済的自立に向けた仕組みづくり ・自然薯の安定的栽培や栽培技術の確立 ・自然薯を活用した商品の開発・販路開拓 ・担い手の確保 ・高齢者の買物支援等の施策の検討

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆旧中山小中学校を活用した多機能総合拠点施設の整備及び運営	映像村を核とした複合施設の整備		映像村を核とした複合施設の運営		
	<ul style="list-style-type: none"> ●安田町： 旧中山小中学校活用検討委員会の開催による施設の改修、運営方針等の検討、施設改修詳細設計、施設改修、スタッフ等の体制づくり、情報発信方法等の検討 ●中山を元気にする会： 複合施設の指定管理受託に向けた体制整備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●安田町： 施設の管理・運営、HP開設やSNSの活用によるPR及び集客増に向けた取り組みの実施、周辺施設を含めた食事や宿泊への誘導、施設を活用した地域のにぎわいづくり ●県（地域本部等）： 施設の運営等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー制度等の活用提案、産振総合補助金（ステップアップ事業を含む）・集活推進補助金の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 		
◆経済的自立に向けた取り組み	自然薯の栽培拡大及び自然薯を活用した経済活動の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●安田町： JAや農業振興センターとの協力による栽培方法の確立及び地域への普及 ●中山を元気にする会： 耕作放棄地を活用した栽培面積の拡大、規格外品を活用した加工品の開発・販売及び販路の開拓 ●県（地域本部等）： 自然薯栽培方法の確立に向けた支援、試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザー等の支援事業の活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性の検討、その他各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆集落活動センターの取り組みの継続及び発展	地域福祉活動・支え合いの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●中山を元気にする会： 集いの場・健康づくり活動等の発展と継続、高齢者の買い物支援・見守り活動の継続、大学連携事業による地域の活性化 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.29 集落活動センターやなせを拠点とした馬路村魚梁瀬地区の活性化 (馬路村)
実施主体	◎集落活動センターやなせ運営協議会、馬路村
APへの位置づけ	H26.4月
事業概要	集落活動センターやなせを拠点に魚梁瀬地区が一体となって、地区の特色ある取り組みを継続・発展させ、地区の活力・やりがいと雇用の場を創出することを目標とした事業を展開する。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
観光客入込数	4,853人 (H30)	2,990人		6,300人

※対象施設：魚梁瀬森林公園オートキャンプ場、魚梁瀬丸山公園（魚梁瀬森林鉄道、杉の家レストラン、森林保養センターやなせの湯（村外利用者のみ））

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域資源を活用した新事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワサビ」、「シキミ・サカキ」、「木のお酒」、「木質バイオマス」等の新産業候補の研究及び検討（H28～） ・高知ふるさと応援隊による「ダム湖 SUP」、「ダム見学ツアー」等の地域資源を活用した観光メニューの開発、実施（H29～） ・観光拠点等整備事業費補助金を活用し、魚梁瀬森林公園オートキャンプ場等の整備（H30） ・うちんくのビジネス塾を活用し、新事業の検討及び事業計画作成のノウハウの習得（R2） ・集落活動センター整備事業費補助金を活用し、車両（ステップワゴン）を購入（R3） <p>◆交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知ふるさと応援隊の導入（H26～） ・集落活動センター推進アドバイザーを導入し、住民組織の立ち上げを検討（H30） ・「集落活動センターやなせ」を設立（H31.1月） <p>◆情報発信の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村留学ホームページのリニューアル、インターネット広告の利用（H29.4月～） ・集落活動センターやなせ SNS アカウント作成（R元.10月） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆魚梁瀬森林公園オートキャンプ場利用者数 H27：890人 → R元：1,521人 →R2：1165人 ◆山村留学による転入 H26：4組 → H28～R2 累計：5組 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した新事業の検討・実施 ・交流を生む仕組みづくり ・情報発信の取り組み
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域資源を活用した新事業の展開	新事業の検討・試行		新事業の本格実施		
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 4つの部会による新事業の検討 観光部会・・・地域の観光資源を活用した観光客誘致 事業部会・・・豊富な森林資源を活用した特色ある事業を展開 住民福祉部会・・・健康づくりや移動サービスの実施を検討 若者部会・・・若者視点による事業企画の提案、実施 ●県（地域本部等）： 関係機関と連携した新事業検討の支援、各種支援に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 各事業を展開、雇用の創出 ●県（地域本部等）： 関係機関と連携した支援、各種支援に関する情報提供 		
	集落活動センターによる観光施設の運営・ブラッシュアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 集落活動センターによる一体的な運営（オートキャンプ場・飲食店・入浴施設・森林鉄道） ●馬路村： 木質バイオマス利用施設の導入の検討、設備の再整備 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座の紹介、各種支援に関する情報提供 				
◆交流人口の拡大	特色ある交流イベントの開催・ブラッシュアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： イベントの開催（魚梁瀬桜まつり、春の観光ツアー、フェスティバル魚梁瀬、秋の観光ツアー等）、集落活動センターを拠点とした地区住民同士や来訪者との交流を生む仕組みづくり ●県（地域本部等）： 各種支援に関する情報提供 				
◆情報発信の取り組み	広報・PRの検討、実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターやなせ運営協議会： 定例会や地区広報を通じた地区住民間の情報共有、飲食店やキャンプ場等の観光施設の広報促進、インターネットやSNSによる情報発信、マスコミを通じたPR 				

分野	その他
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.30 集落活動センターがいせいを拠点とした”小さくてももっと元気で輝くむら”づくり (芸西村)
実施主体	◎集落活動センターがいせい、芸西村
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	芸西村の住民が集落活動センターを中心に集まり、耕作放棄地を活用した農産物の栽培・販売や竹害への対策事業等の取り組みを通して地域の課題を解決していくとともに、村産品の加工品づくりや磨き上げを行って地域活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
加工品等販売額	108万円 (H30)	180万円		500万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆特産品づくりと外商活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の指導のもと、白玉糖を活用した加工品（白玉糖ミルクバター、白玉糖半熟生カステラ、白玉糖チーズケーキ等）を開発（R元～） ・かつぱ市での加工品販売を開始（R元～） ・「うちんくのビジネス塾」を活用し、商品のパッケージやPOP作成について専門家の支援を受ける（R元） ・HACCP研修受講を通じた外商の基盤づくり（R元） ・集落活動センターがいせいを一部改修し、生産拠点として整備（R元） ・加工品の統一ロゴ完成（R2） ・食品衛生協会によるHACCP専門家派遣（R2） ・芸西村のふるさと納税返礼品として出品（R2） ・県版HACCP旧ステージ2取得（R3） ・中山間地域アドバイザー（お菓子作り専門家）派遣：3回（R3） ・白玉糖加工品の販売店舗の拡大（ロイヤルホテル土佐、高知空港、ANAキャンペーン他）（R3） <p>◆経済的自立に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ栽培・白玉糖販売を開始（H28～） ・耕作放棄地におけるシキミの栽培及びかつぱ市での販売を開始（H29～） ・竹林伐採の受託事業を開始（H30～） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆白玉糖加工品等販売額 H30：108万円 → R2:180万円 ◆シキミ園面積 H29：30a → R2：43a ◆竹林伐採の受託等 H29：50千円 → R2：1,124千円 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品のさらなる開発、ブラッシュアップ、販路拡大 ・シキミの安定した生産量の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆特産品づくりと 外商活動	新商品の企画・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターがいせい：原料となるサトウキビの栽培、白玉糖を活用した商品の検討、試作品づくり、テストマーケティング、レシピ開発 ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、中山間地域振興アドバイザー等の活用による専門家派遣の提案 				
	商品の磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターがいせい：消費者からの意見を踏まえた商品の改善、商品の製造過程や賞味期限等の見直しによる磨き上げ、パッケージの見直し ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、中山間地域振興アドバイザー等の活用による専門家派遣の提案、工業技術センターによる成分等の分析 				
◆経済的自立に 向けた取り組み	外商の基盤づくり	外商の展開			
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターがいせい：HACCP 認証取得、統一ロゴを用いたブランド化、情報発信の強化、商談会等への出展 ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、販路拡大に係る中山間地域振興アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターがいせい：商談会や展示会への出展、営業等による販路開拓 ●芸西村：ふるさと納税返礼品での取扱い ●県（地域本部等）：商談会等の情報提供、地産外商公社等への橋渡し 		
	シキミの栽培・販売				
	<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターがいせい：シキミの栽培及び販売、栽培面積の拡大 ●県（地域本部等）：各種支援策の活用提案、安芸林業事務所・森林技術センターによる助言 				
竹林伐採の受託等		新規事業の検討・実施			
<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターがいせい：竹害を及ぼしている竹林の伐採受託、イベント「竹灯りの宵」に使用する竹の切り出し・加工 ●芸西村：竹林伐採に対する補助 		<ul style="list-style-type: none"> ●集落活動センターがいせい：運動公園の管理受託や図書館の事務受託等の収入につながる事業の開始を検討・実施 			
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製法における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					